

棟肉

長洲住 顯國

刃中肉

◎顯吉

小肉棟

長洲住 顯吉

◎顯久

長洲住 顯久

◎顯長

長洲住 顯長

小肉棟

◎安國

長洲住 安國

小肉

◎重國

長洲住 重國

角小肉

◎行觀

行觀

棟肉

長洲住 重國

細直刃なり

長洲住 重國

角小肉棟

彫物ありてのたれ亂れ沸ありて上位に屬す。

◎清正

角棟面トル

○長列住三王清正作

互りて、各工同銘のもの多し。

◎清春

小肉棟

○長列住清春

周防の同銘より後の作なるに似たり。

以下掲ぐるところの三圖は、新刀として新刀辨疑に載する所のものなり。然れども、其の時代等詳ならざれども慶長前後の作なるが

ごとし。依て特に茲に載することゝなしたり。

角棟

○長列住三王方清

角棟

○長列住清定

角棟

○長列住三王清實

長門の三王は、以上の外、尚ほ數十百工ありと雖も、唯其の名を存

するのみにして、圖說すべき資料に乏し。然れども優秀あるのみにて、大體の作に於いては、異ならざるがごとし。

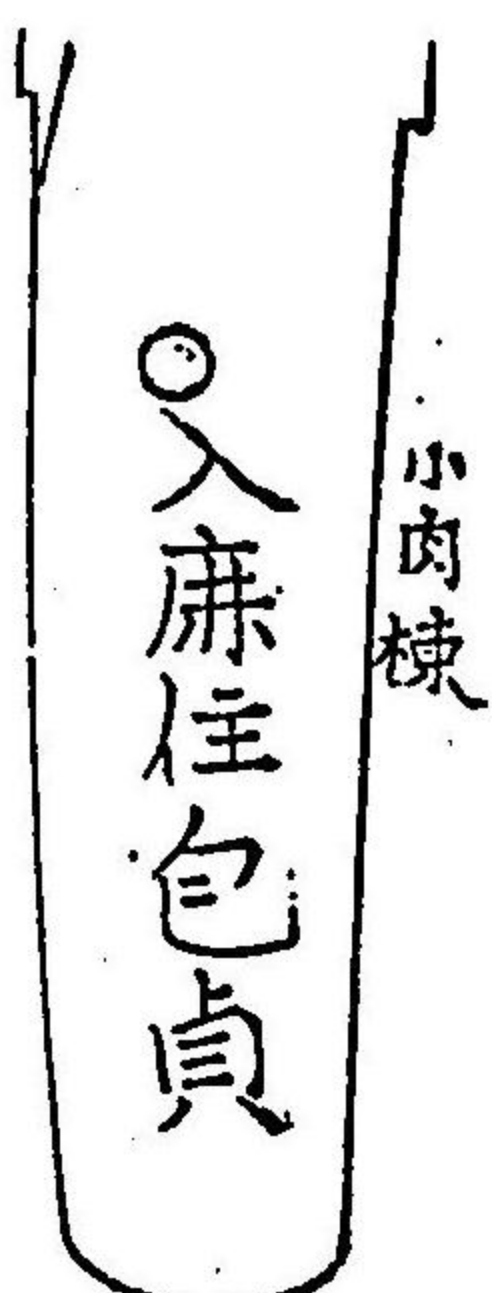
第十八編

南海道鍛冶刀劍形象

◎紀伊國

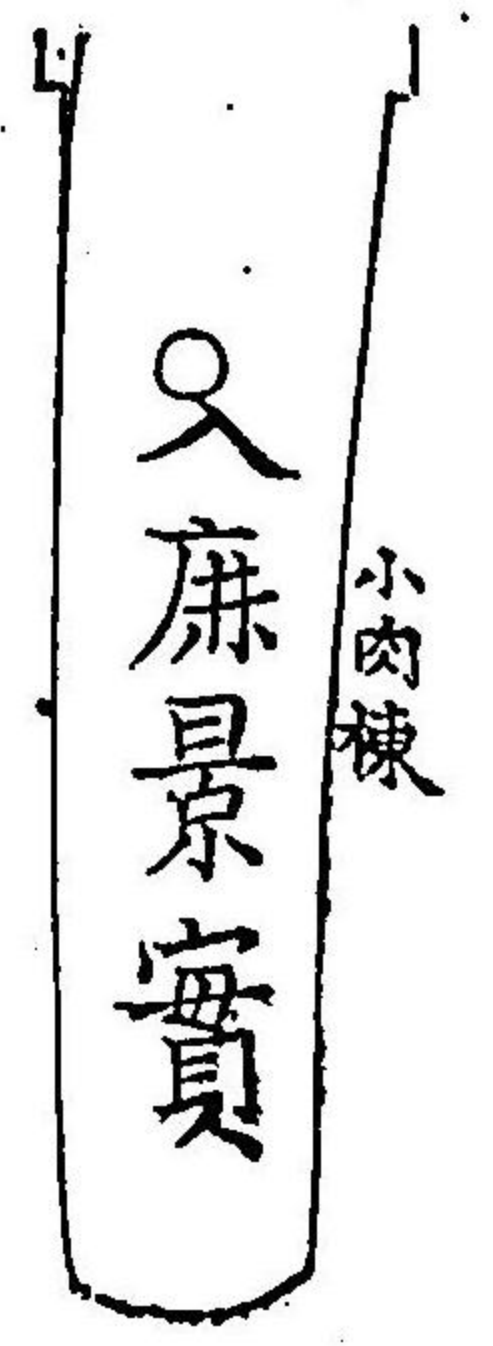
◎包貞

包貞は、本國大和なりしが、紀伊に來りて、入鹿に住し、以て鍛冶の業に従へり。故に世この一族の鍛鍊に成るものを稱して、入鹿物（或ひは入賀とも書す）と唱ふ。太刀の



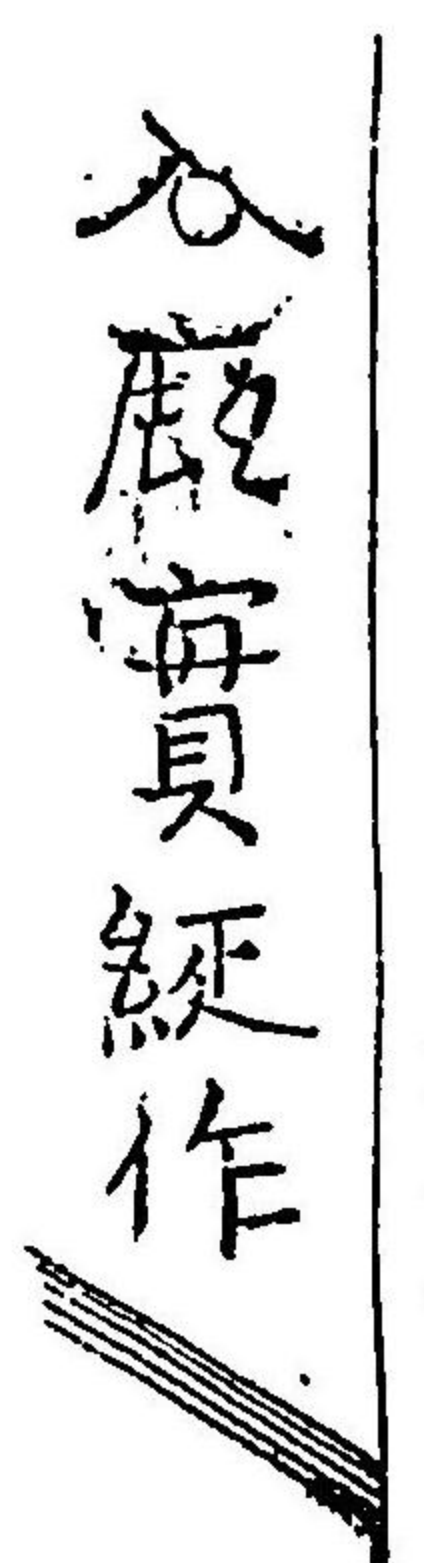
姿は關に似て、鍛正目こまやかに、沸匂ひ深く、直又多く、銚子丸く、返り淺し。

此の一族中にて名手と稱すべきは本宗、仲真及び仲國等にして其の大體は、包貞と異ならず。



◎實綱

文明十八



入賀住友永美鐵

○入賀住友永美鐵

角棟

藤原を打ちしは二代目
なりとも云ふ。

○入鹿

入鹿

◎國次

小肉棟

○國次

粉河に
住す。

○國次

○國次

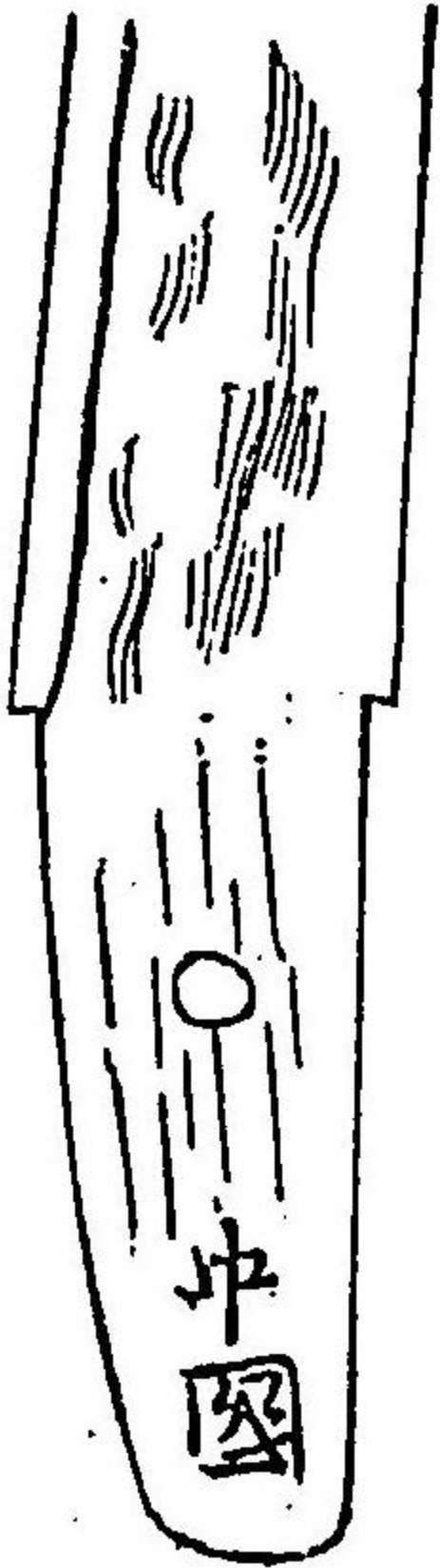
○國次

亂○

○國次

◎仲國

棟肉



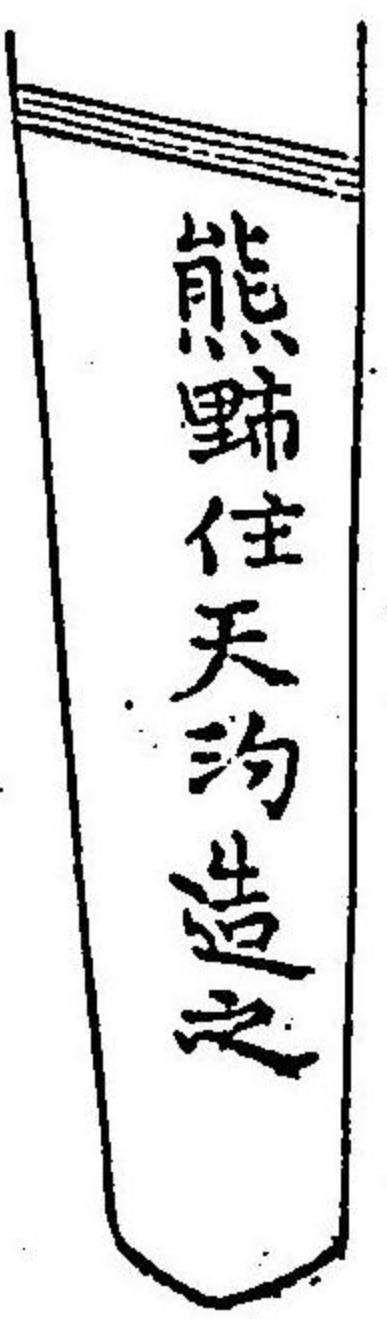
角にして肉○



しこまやかにして、能く沸切れたるものなり。

◎天狗

鍛板目にして梨の平のごとくに刃の際に木工あり。肌は備前物に似たり。刃界も亦道永のごとくにして、能く沸たり。但



小亂刃にして、刃縁の上に木工肌ありて沸あり。其の作佳ならず。

紀伊にはすべて十九工あり、其の作もとより同日の論にあらずといへども、いづれも右に圖示したるものよりも劣れること勿論なり。

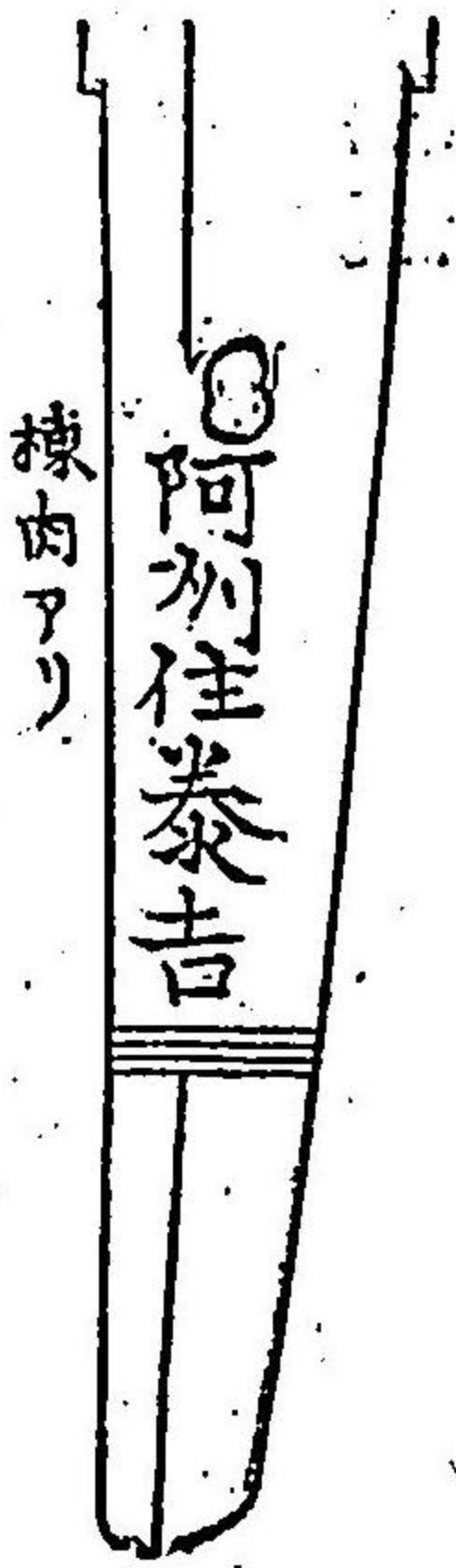
◎阿波國

◎氏吉



氏は、海府太郎と號し、數代同銘あり。初代は、嘉元延慶中、又康曆、永徳若くは應永中とも云ふ。初代の作は、太刀の姿、中心の形、備前物に似て、地鐵麗しく、沸の心は、波平の風情ありて、匂ひは沸に比ぶれば劣れり。然れども其の切るゝことは、實に言ふべからず。

◎泰吉

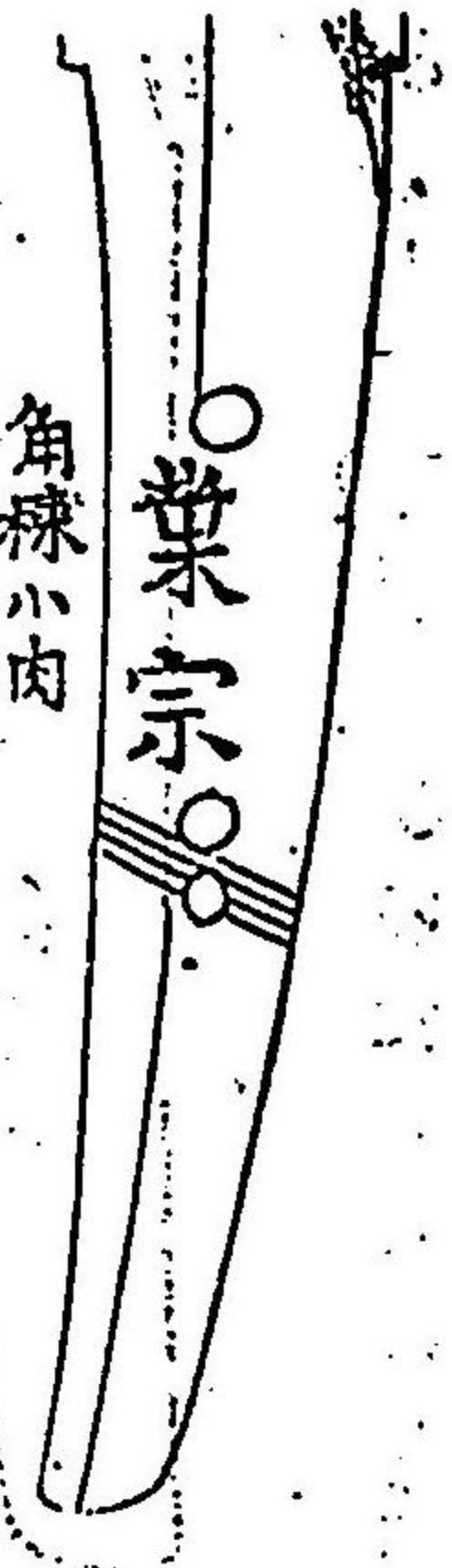


◎師久 (もろひさ)



◎讚岐國 (讃岐)

◎業宗 (なりむね)



國の清房を指稱するものとなりと云ふ。にのぼりて尋常の小沸あり。匂ひ深し。

業宗の太刀姿は、備前物に類せり。或ひは佐渡守の弟なりとも云ふ。佐渡守とは、此の鍛板目にして鉋子細く、地

◎秀延 (ひでのぶ)



◎山進 (やまのしん)



山蓮は、横にならべて彫りたるもなりと云ふ。

◎伊豫國

◎國吉

小肉棟



國吉は、鍔の上工なり。太刀の姿、備前小反に似て、鉞子には必ずふくらの所焼き

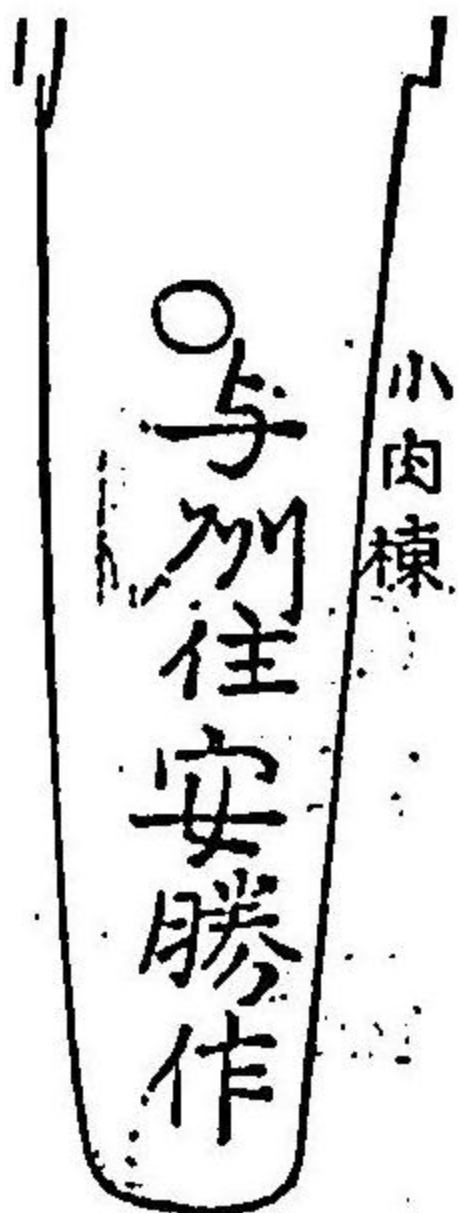
こみあり。直及びびのたれもあり。

◎安定

与州住安定作

◎安勝

小肉棟

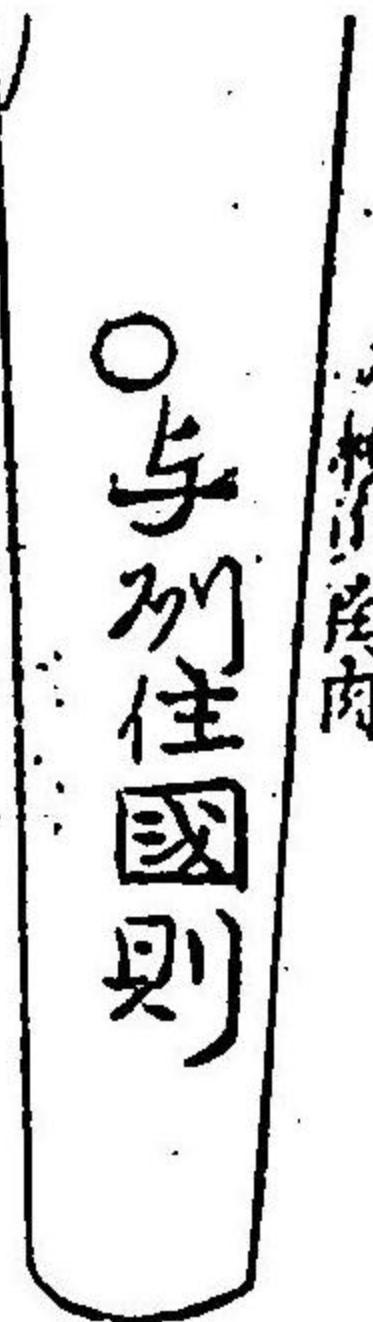


与州住安勝

廣直及びに小亂れ、返り少しあり。

◎國則

小棟小肉



◎安家

小肉棟



◎鎌久

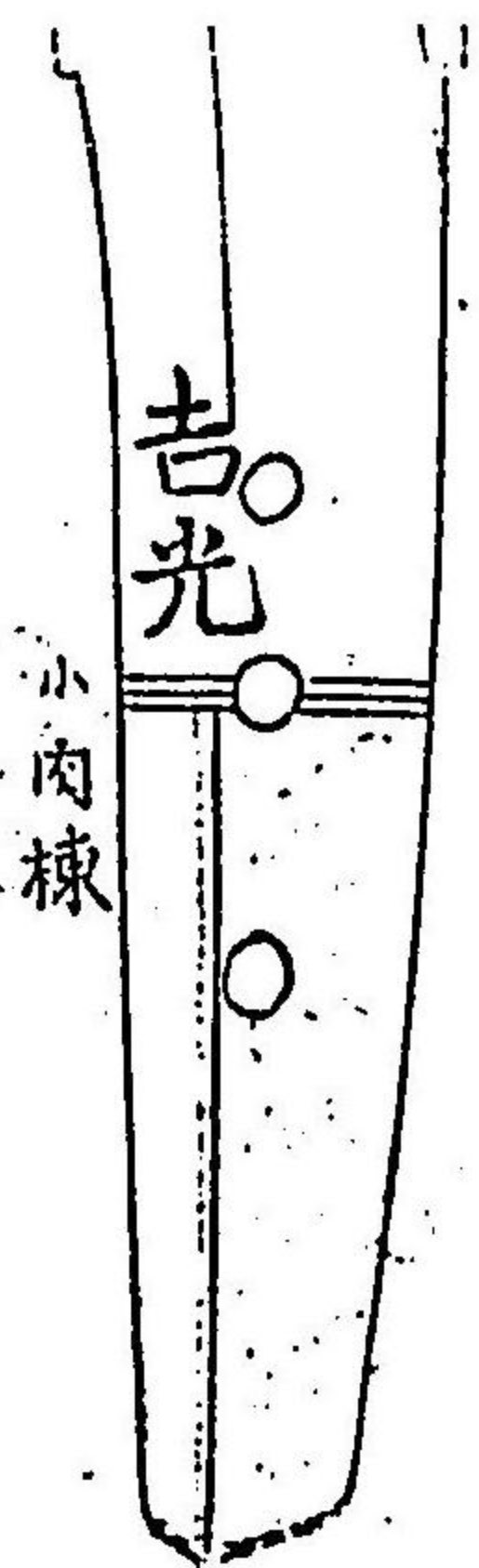
○豫州住平鎮久作

◎國永

寺別住國永

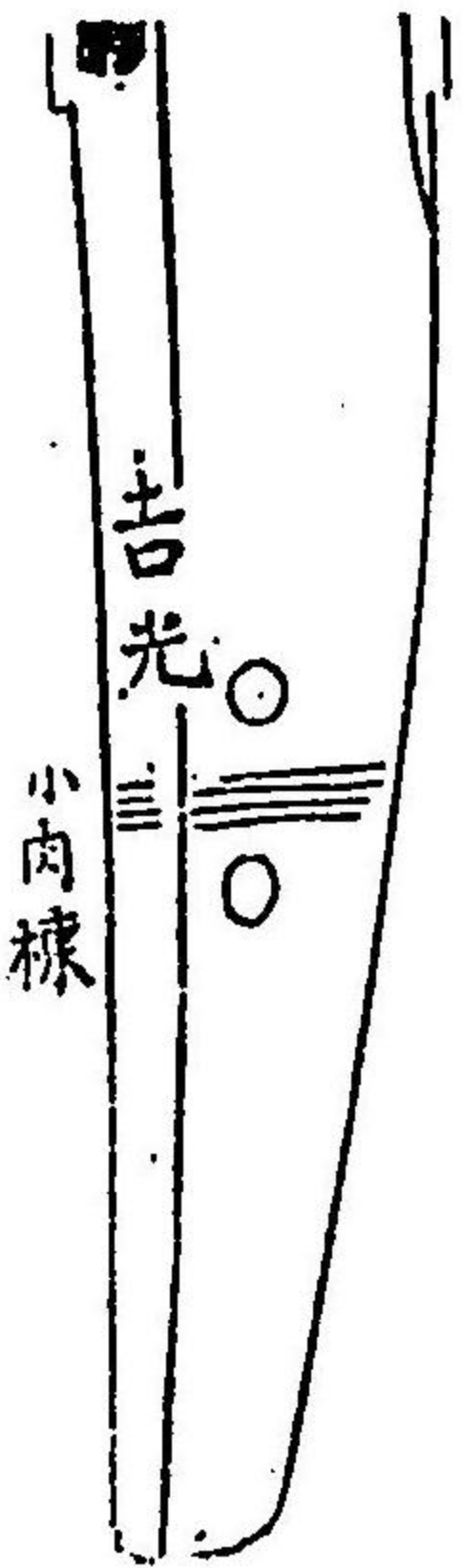
◎土佐國

◎吉光



小肉棟

○吉光



小肉棟

吉光

○吉光

りと。鍛は正目にして太刀の姿正光に似たり。直双にして沸細かに句ひ深し。鍔子は杉形にして返り深し。二代同銘あり。

鵜首作りは青江に似たり。直双にして細し。年號のイは、徳の字の缺けたるものならん。

吉光は、大和鍛冶の末流にして、南朝正平中の治工なり。五郎左衛門尉と稱す。或ひは云ふ、粟田口正光の弟子なり。

本朝鍛冶考に曰く、按ずるに吉光と銘し、中心の棟角、或ひは小肉若くは丸く、先は片山形栗尻、鑪は、小筋違等のもの世に多し。皆藤四郎作なりとして賞玩す。殊に栗田口吉光を模して贋せたるものも亦多し。當國の父子二代の作となすも、世にありといへども、眞贋は、其の物に備はりあること察知すべし。正恒、正宗、長光、行光、貞宗、國光、國次、國宗等上工に同銘多き鍛冶は、皆推して知るべきものなり、云々と。

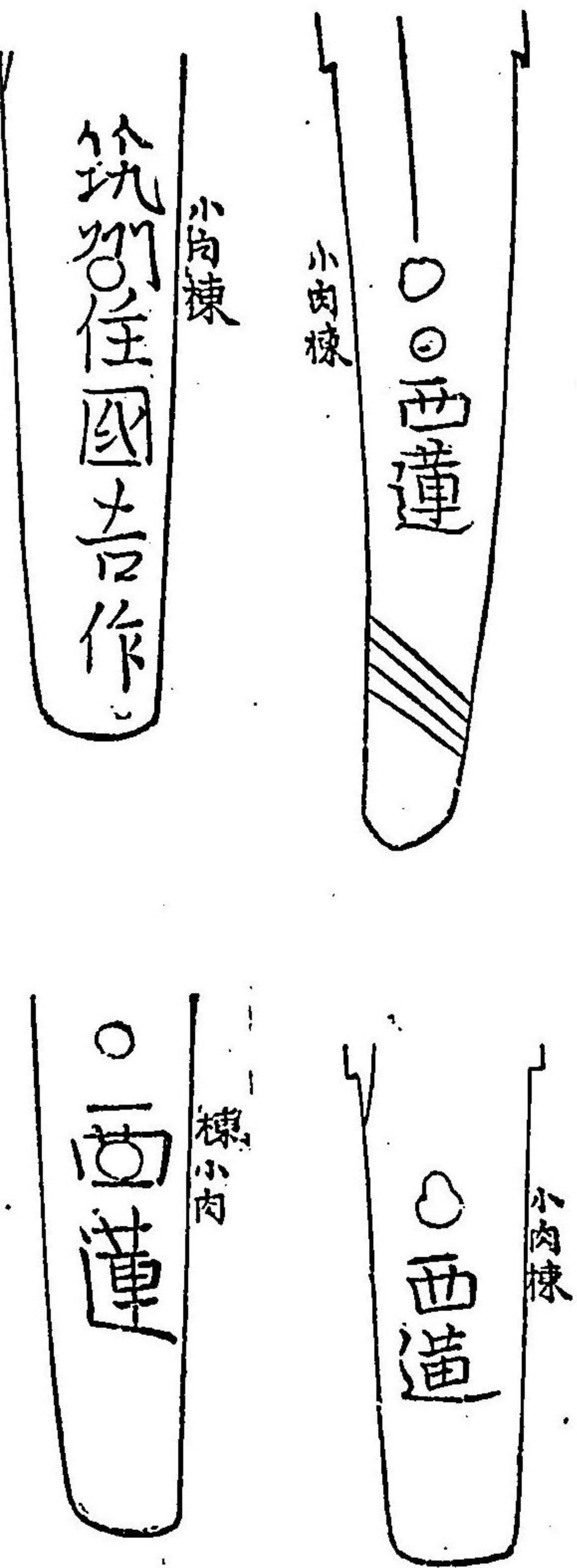
兼氏、包永、義胸、則房、國安、行安、國重、爲遠、近房、宗國等のごとき刀工、土佐にありて其の名を知らるゝといへども、其の作甚だ少なし。従つて茲に圖説すること能はざるなり。

第十九編

西海道鍛冶刀劍形象

◎筑前國

◎西蓮

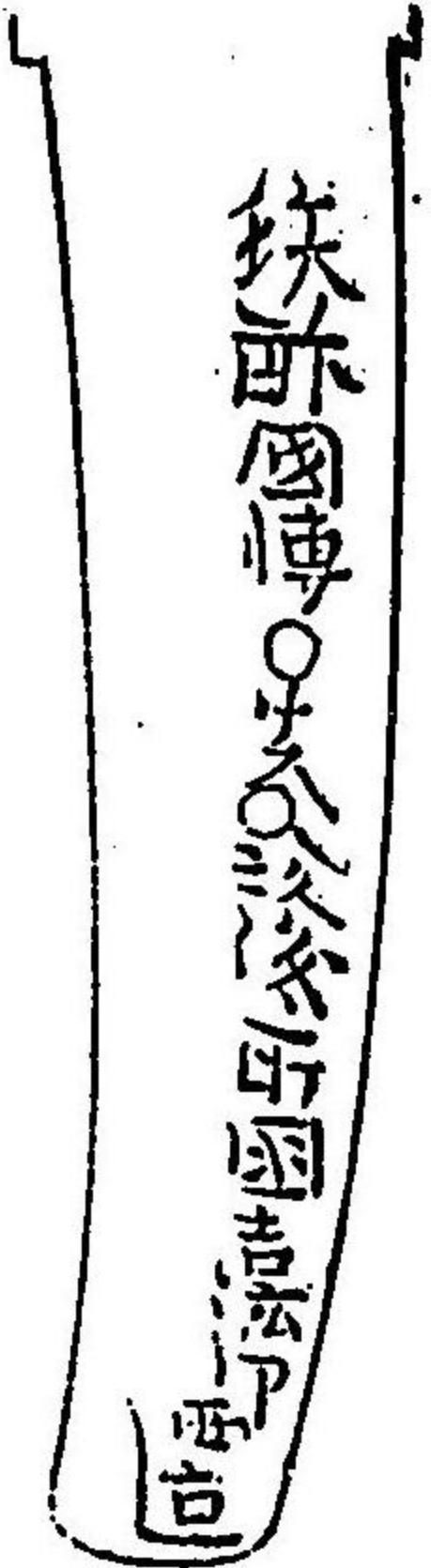




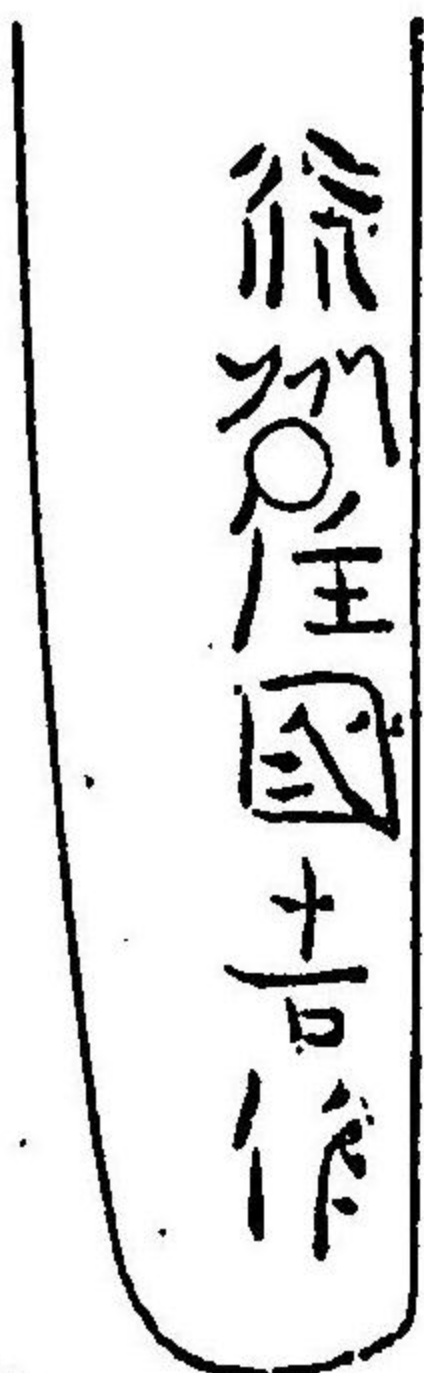
西蓮

西蓮

西蓮



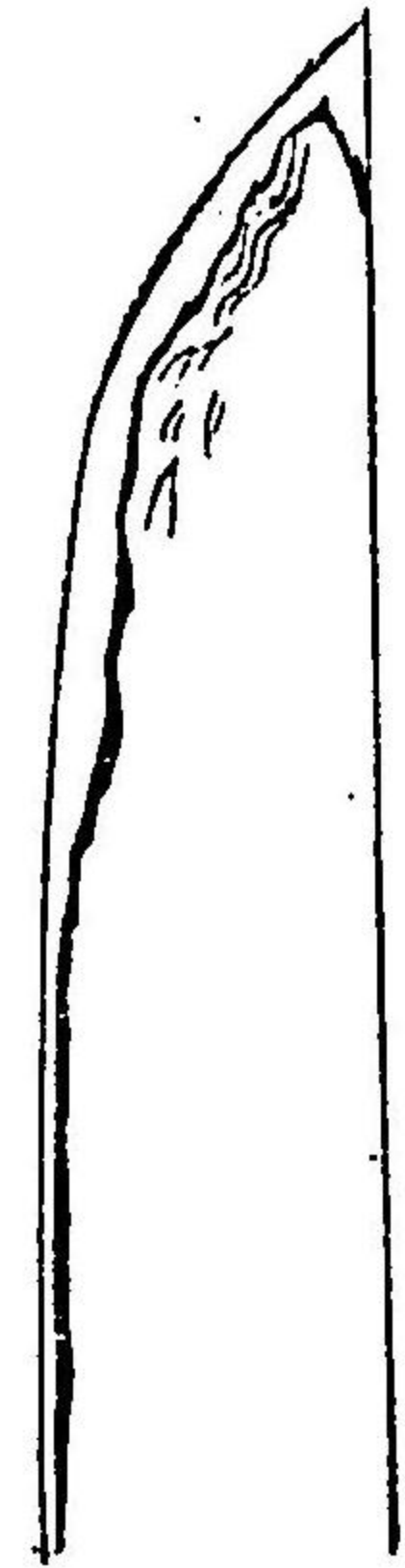
文天元年の西二月



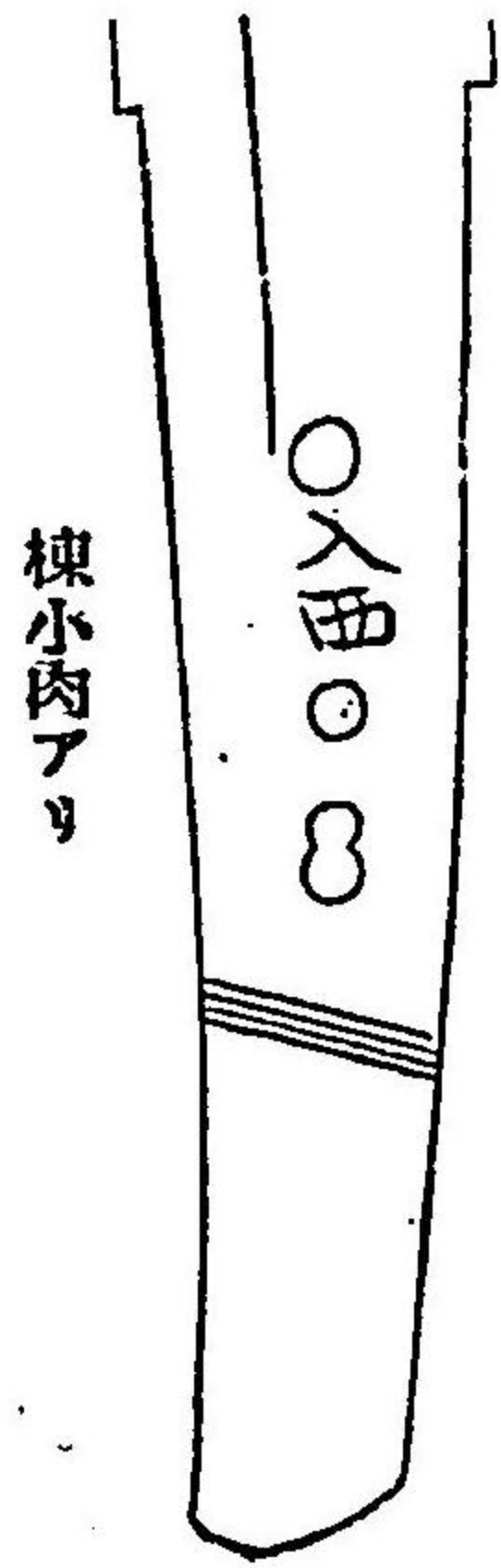
此の作實阿に似たり。鉈子丸し。

西蓮の父は、備前の人なりと云ふ。西蓮は、國吉と同人にして實阿の父なり。太刀の姿幅ありて、重ね厚く、地鐵こまやかに、鉈子は

京物に似て、返り淺し。樋彫物もあり。直刃の名工なり。左に西蓮の焼刃を擧げて、其の如何を知得せしめん。

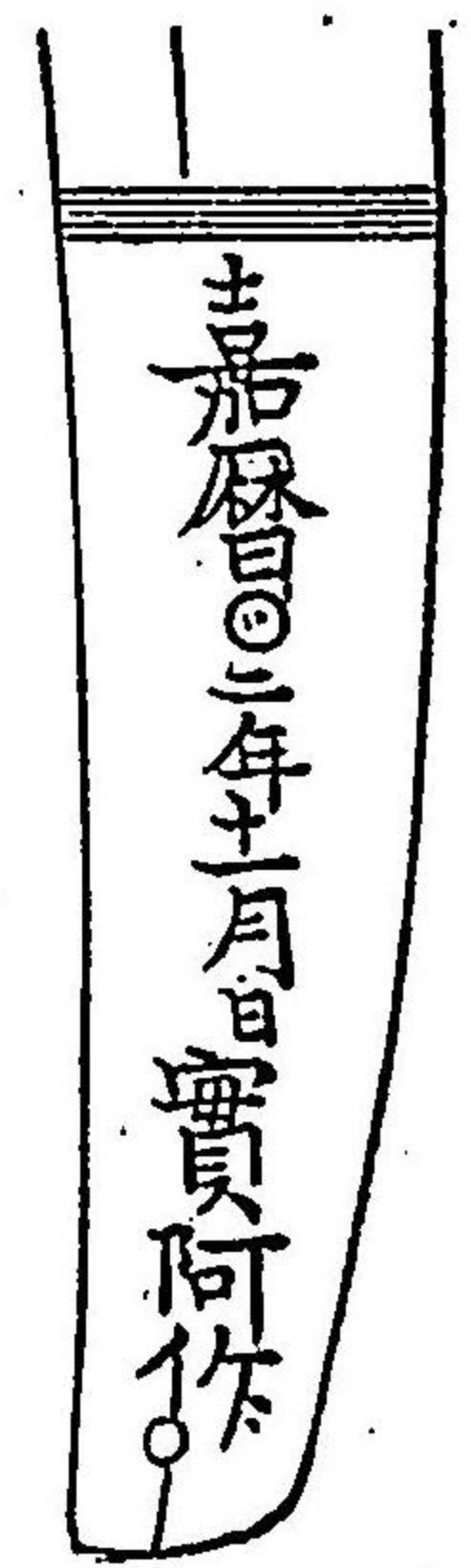
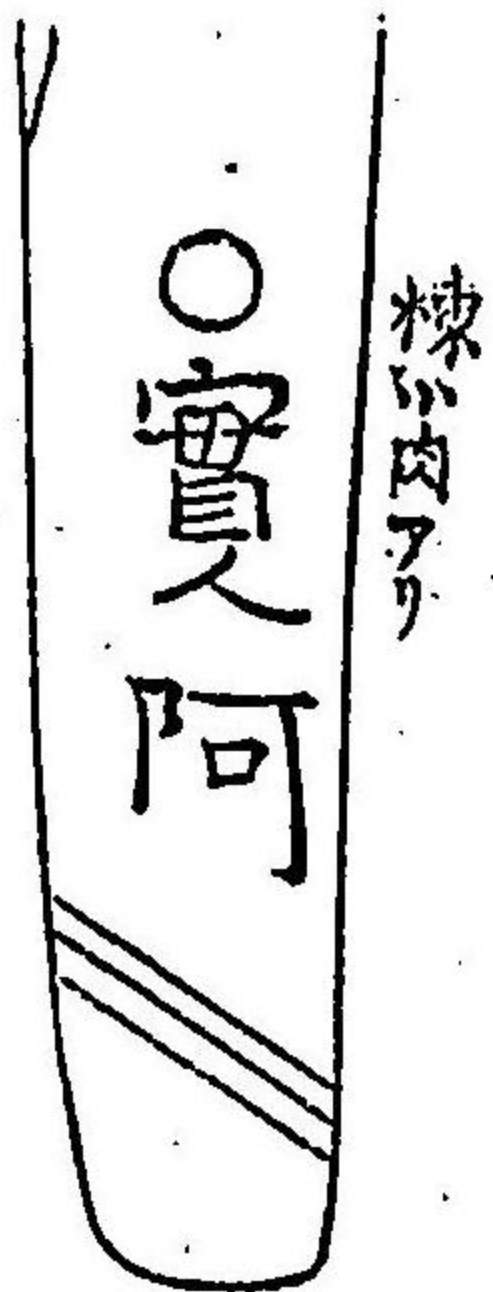


◎入西

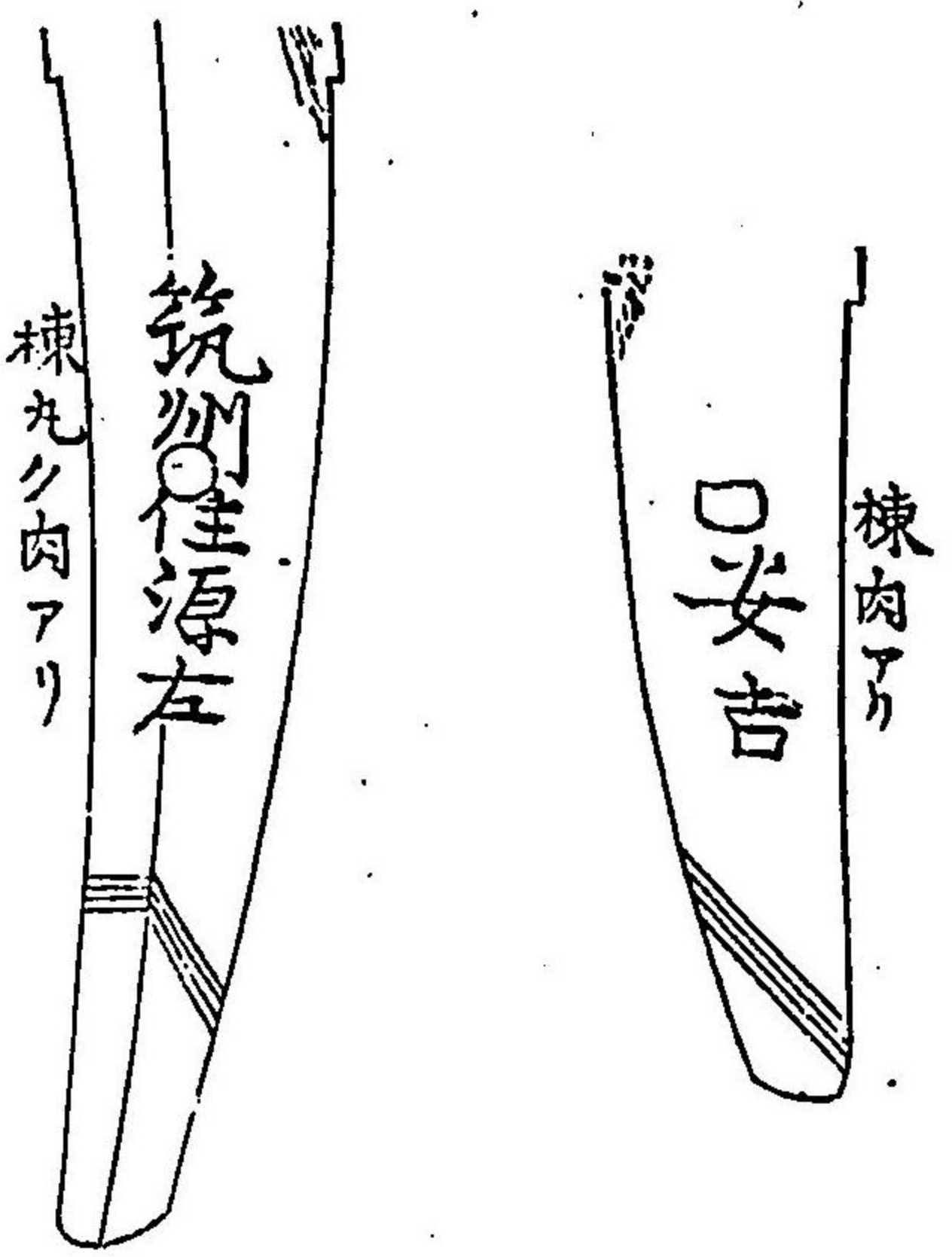
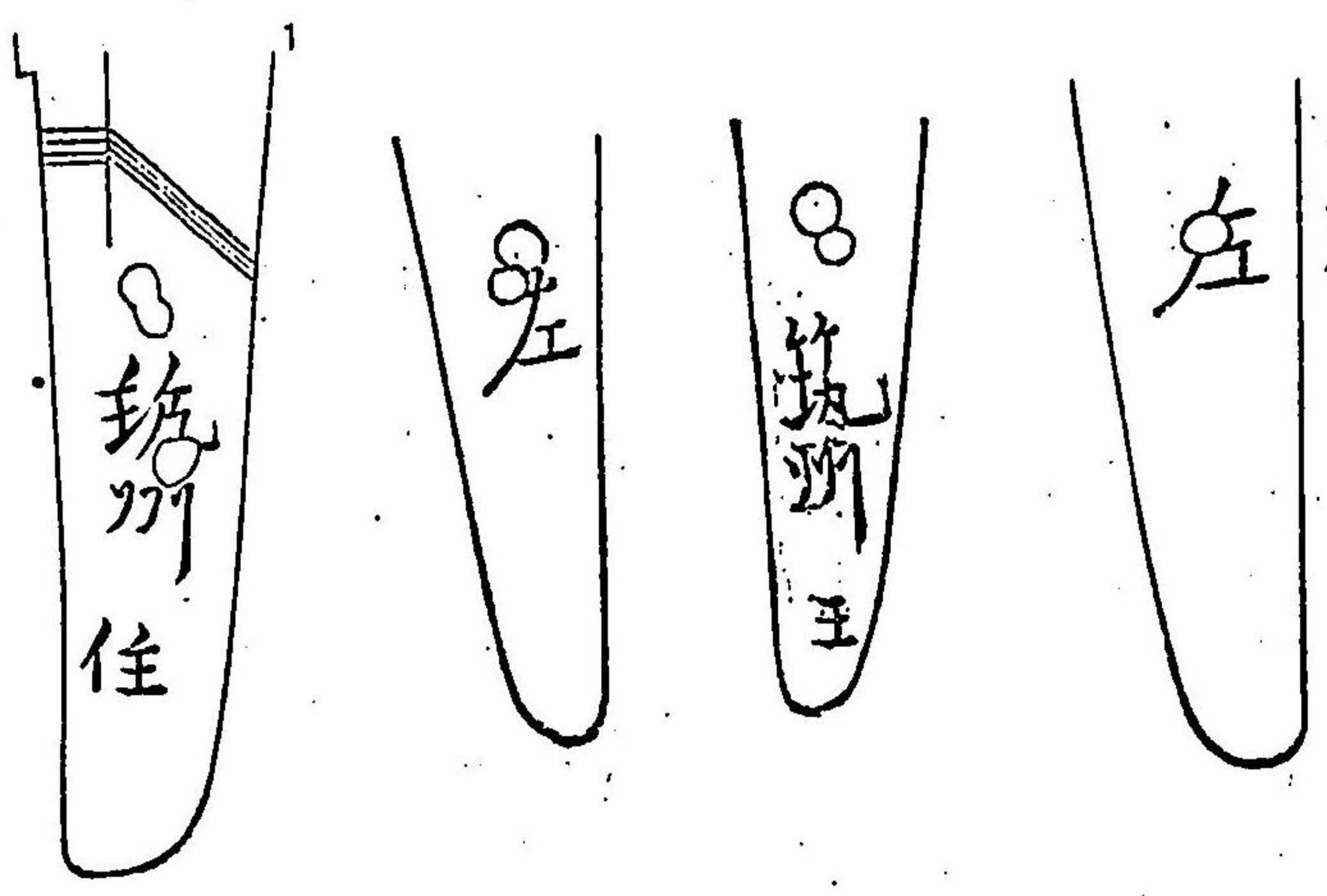
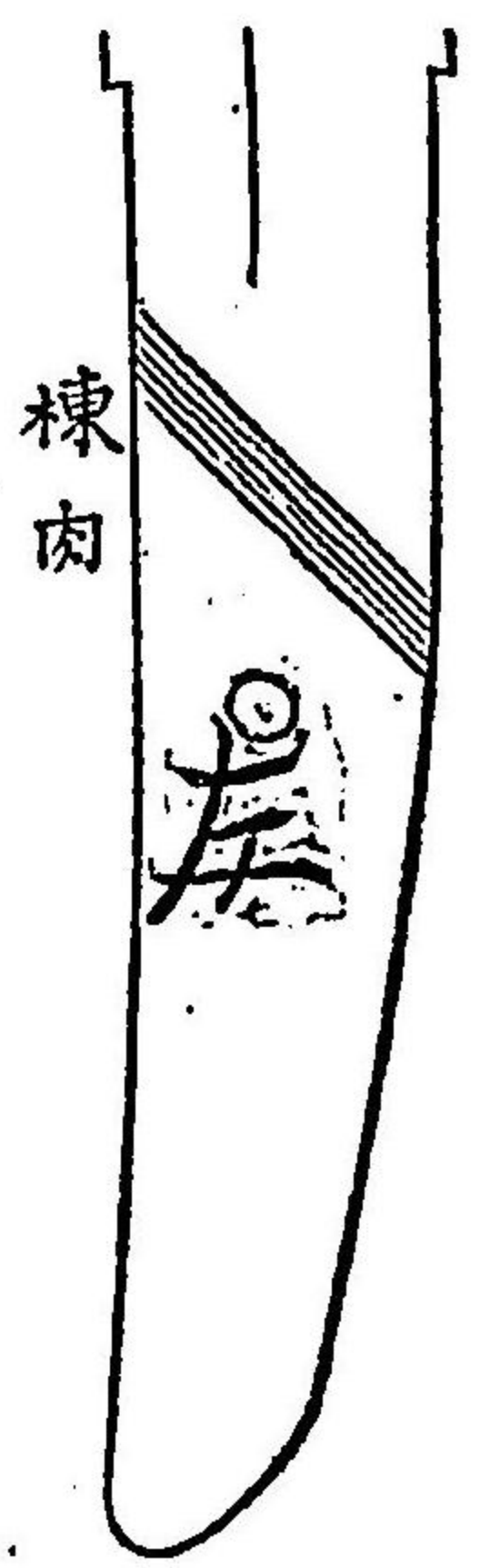
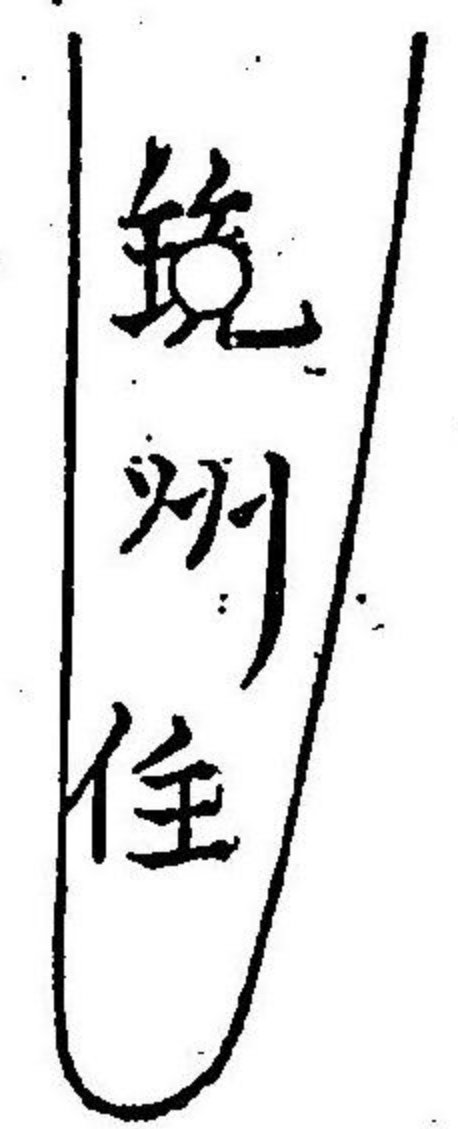


棟小肉アリ

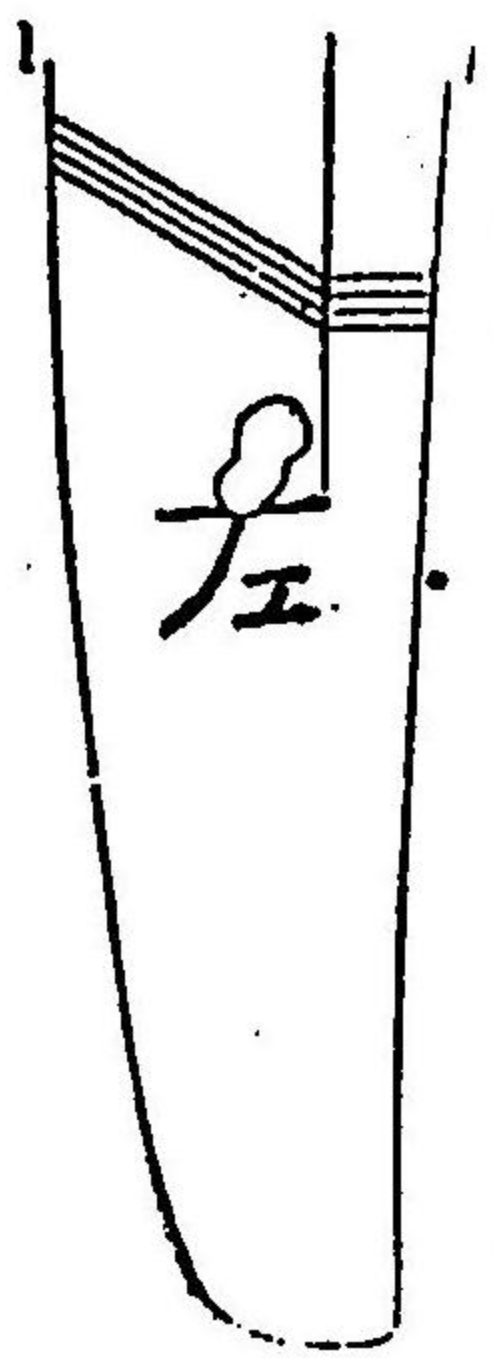
◎實阿



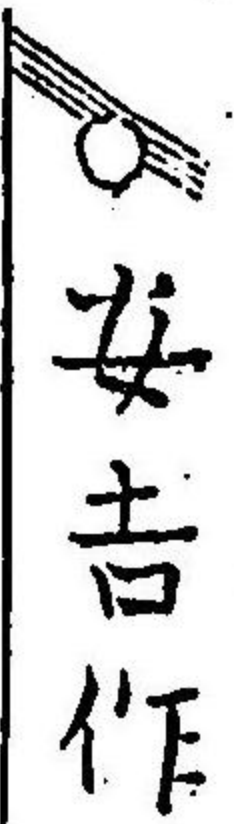
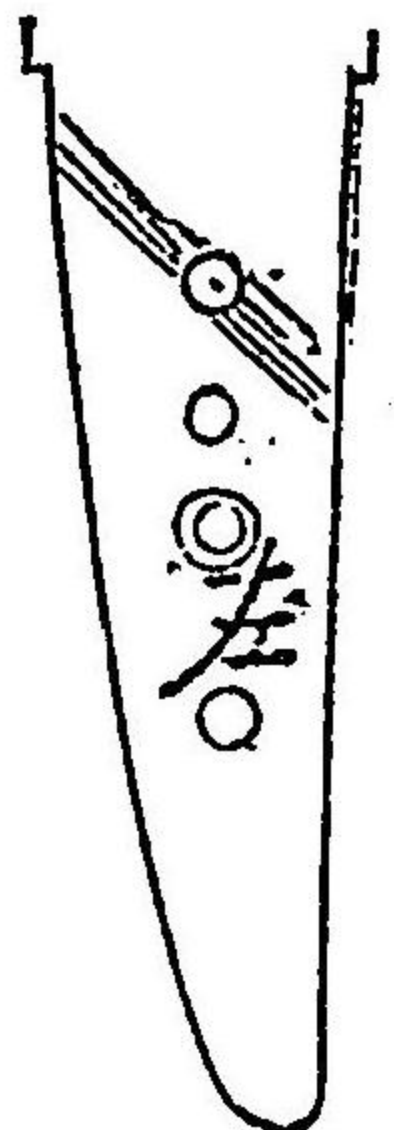
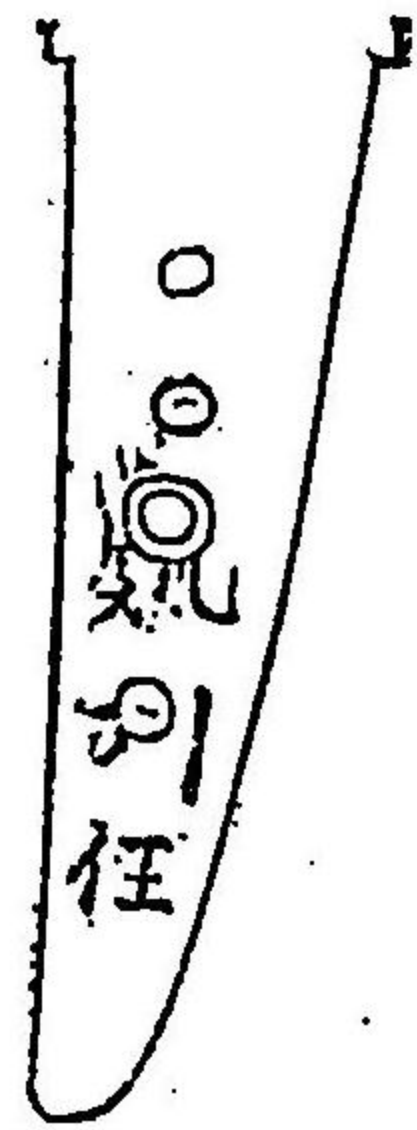
◎安吉アキ



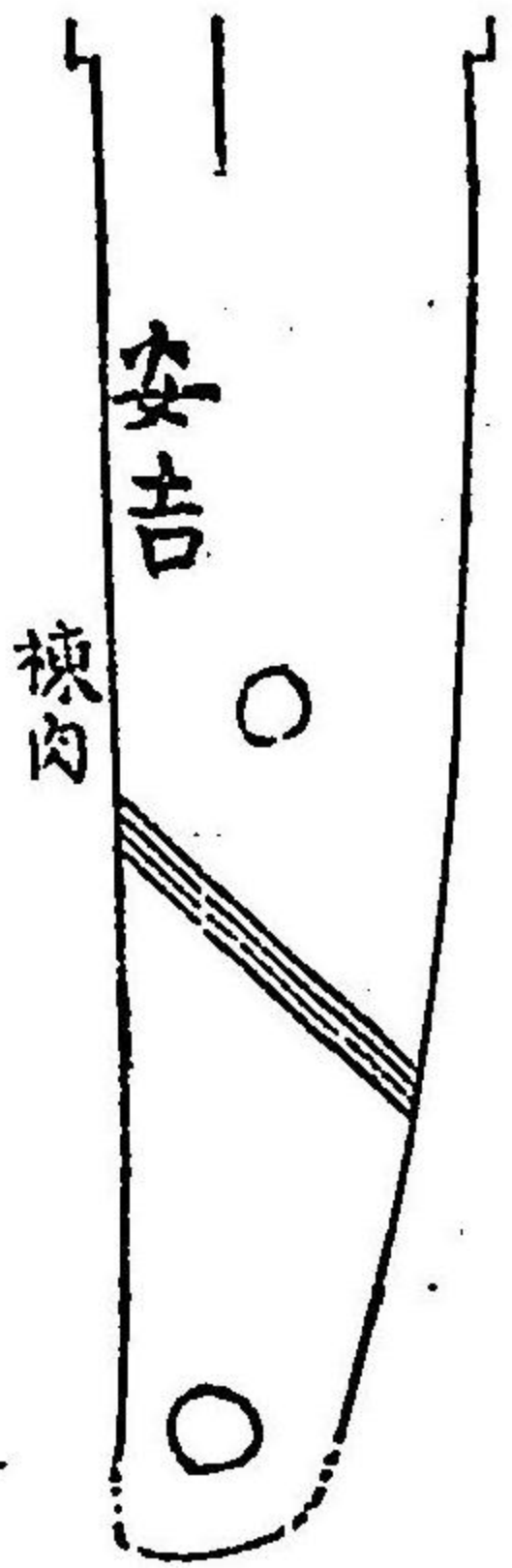
此の作は、反高くのたれ心あり。大
亂れ則重に似たり。三つ棟、重ね薄



し。鶴首を取りたるものと謂ふべし
其の長さ一尺九寸四分。



貞治六年



棟肉ありて重ね厚く、棟焼ありて反高し。元に亂入あり。

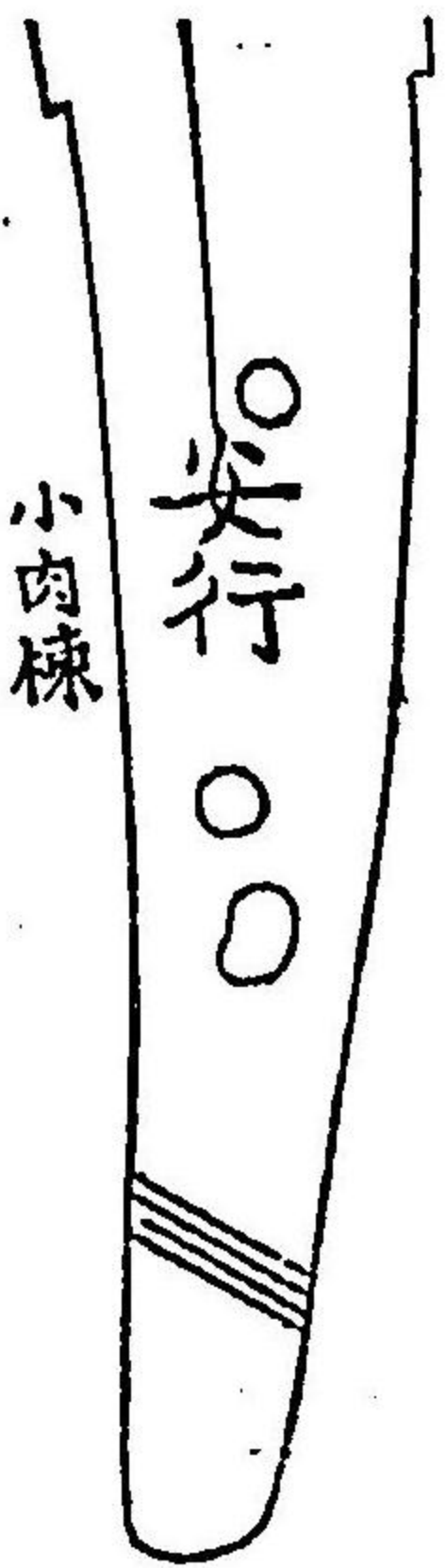
〇現州任

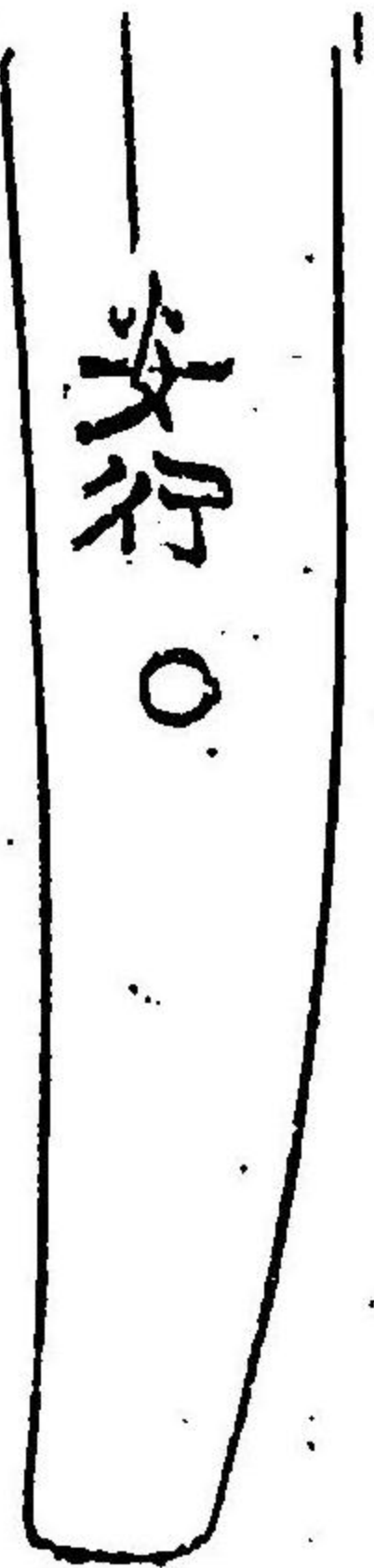
安吉の作は、父に似て、地鐵は一層

〇左安吉

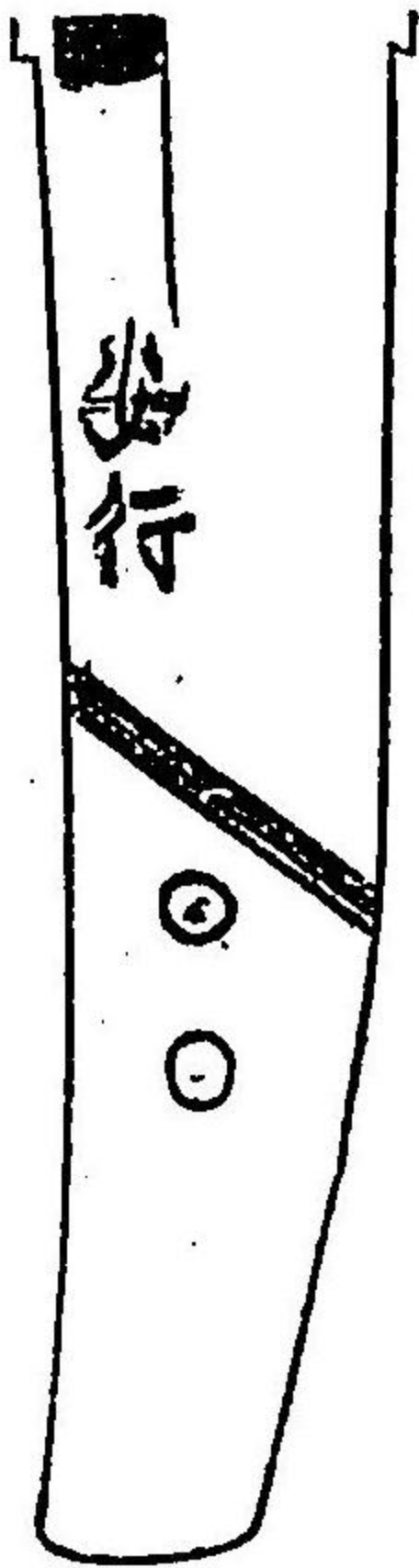
細かにして青く、沸は細かにして匂ひ深く、銚子細く昇りて尖れり。

◎安行





丁子てうじ双は廣ひろくして返かえり深ふかし。
少すくしく腰こし双はあり。

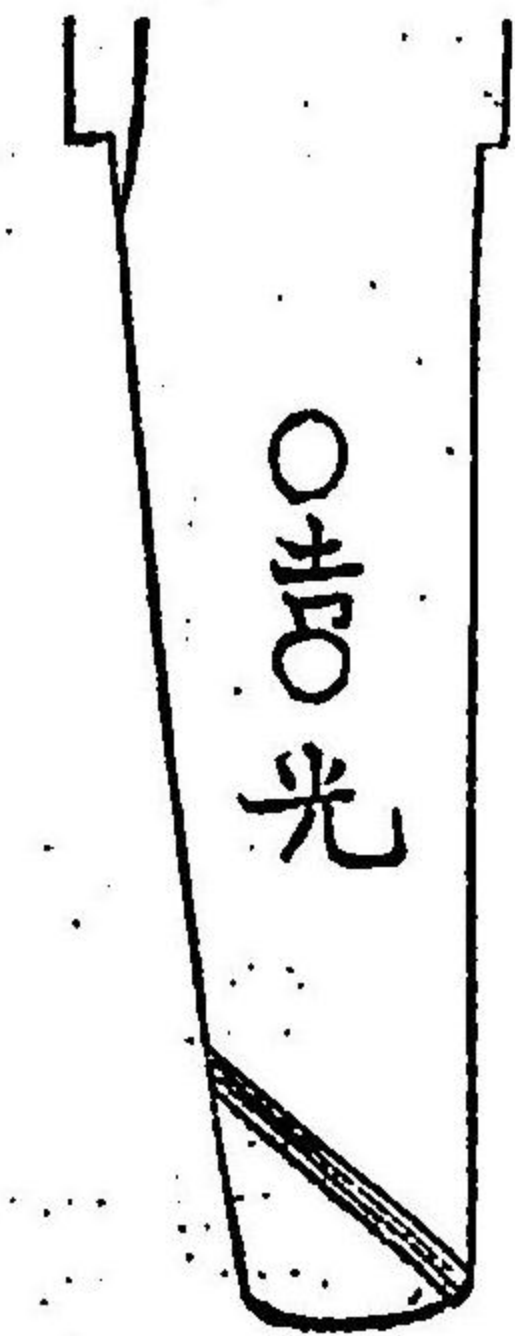


◎貞吉まことよし

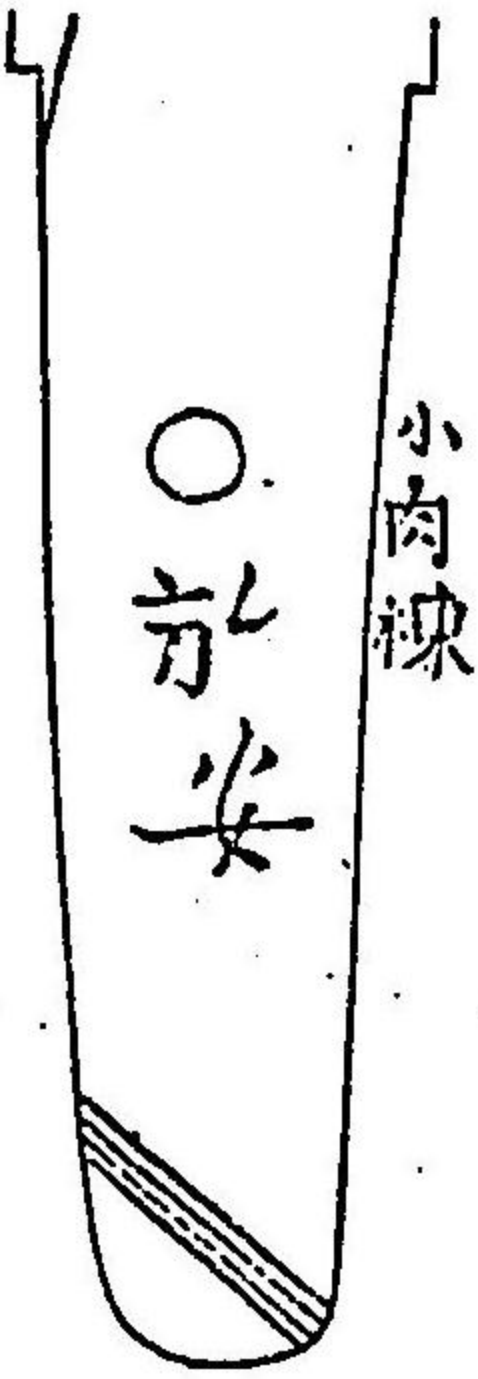
◎吉光よしみつ



小肉棟



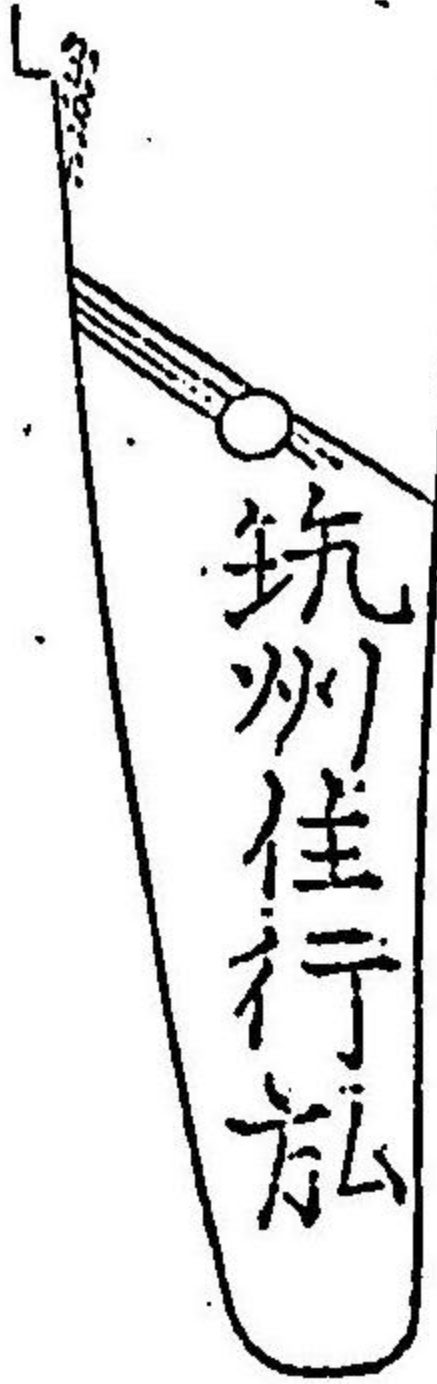
◎弘安ひろやす



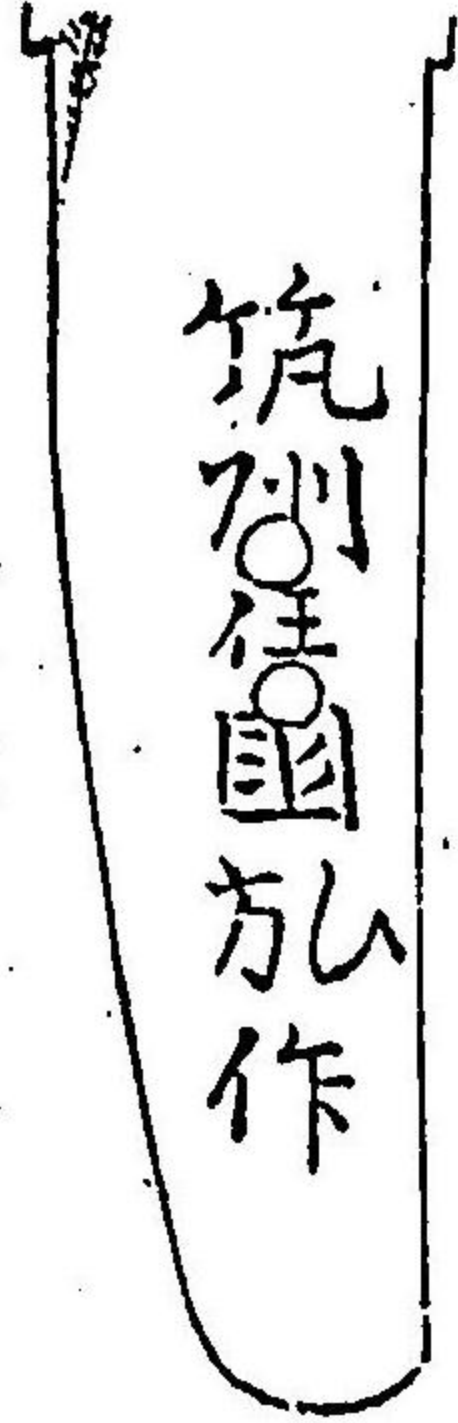
小肉棟



◎行弘ゆきひろ



◎國弘くにひろ



小肉棟



◎吉貞
小肉棟

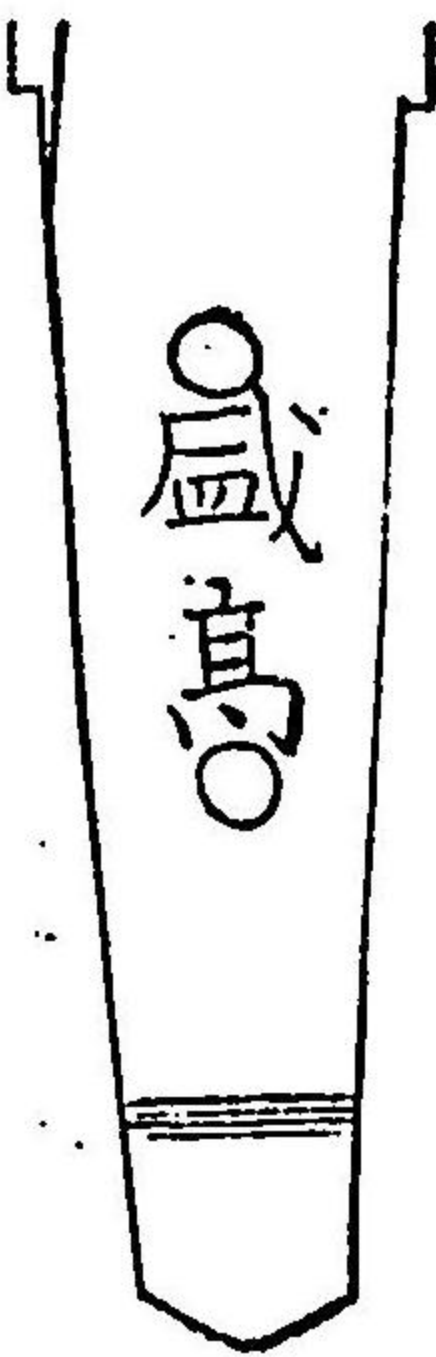


◎定吉

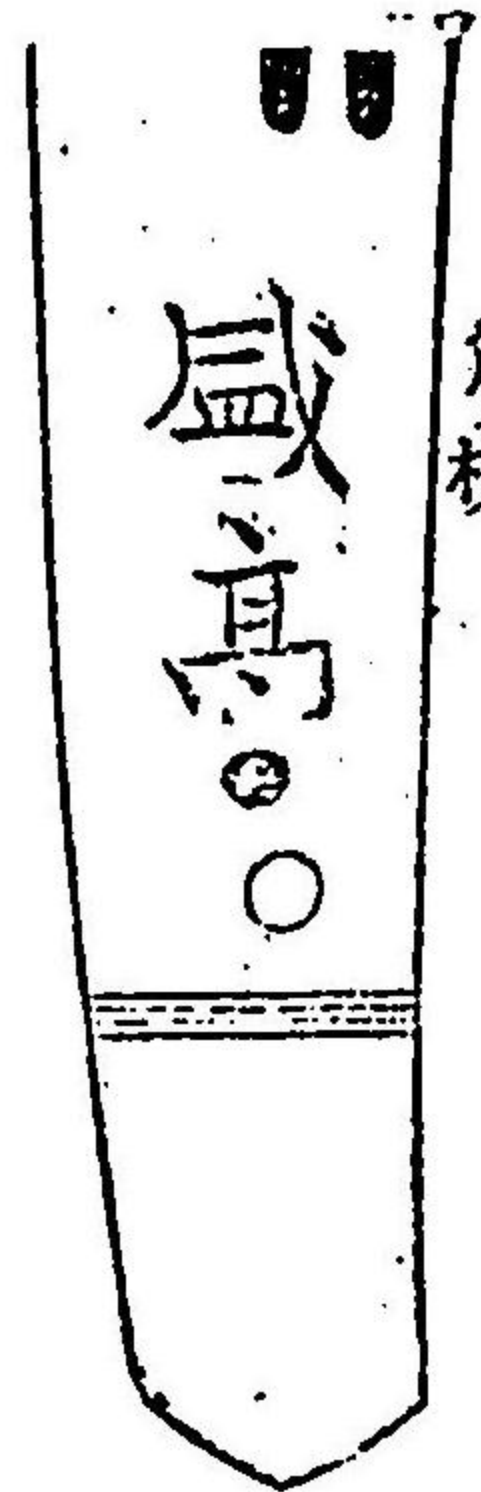


角棟 初代ノ作

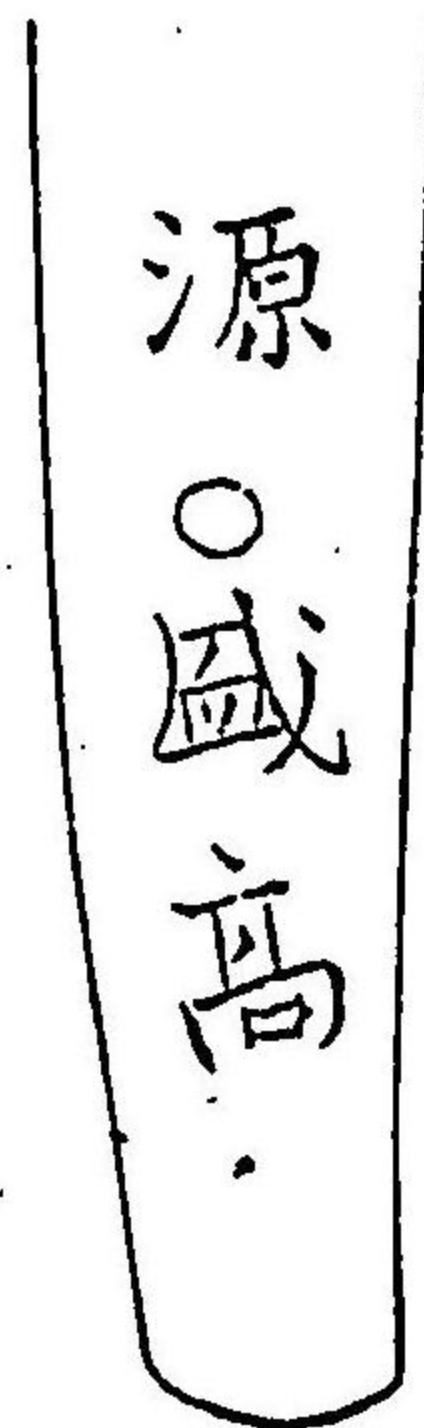
◎盛高



角棟 同上



角棟 二代目



三代目



初代盛高の太刀姿は、幅重ねともに丈夫にして、地又ぢまたに細こまかき木工もくこう肌はだあり。鉞つば子丸こまるく、返かえり深ふかく、直す又またのもの多おほし。其そのの大體たいたいは二王にわうの初代しよだいに似にたり。

角棟 ◎盛重

源盛重

◎定盛

小肉棟

◎定盛

◎長綱

小肉棟

金剛兵衛尉源長俊作

(裏)

◎盛國

盛國造之

◎盛次

角棟

源盛次

小肉棟

(裏)

永正十二年八月日

◎惟貞

丸棟

(裏)

金剛兵衛尉源惟貞作

(裏)

永正七年二月日

◎盛包

源盛包作

◎盛秀

源盛秀作

◎盛安

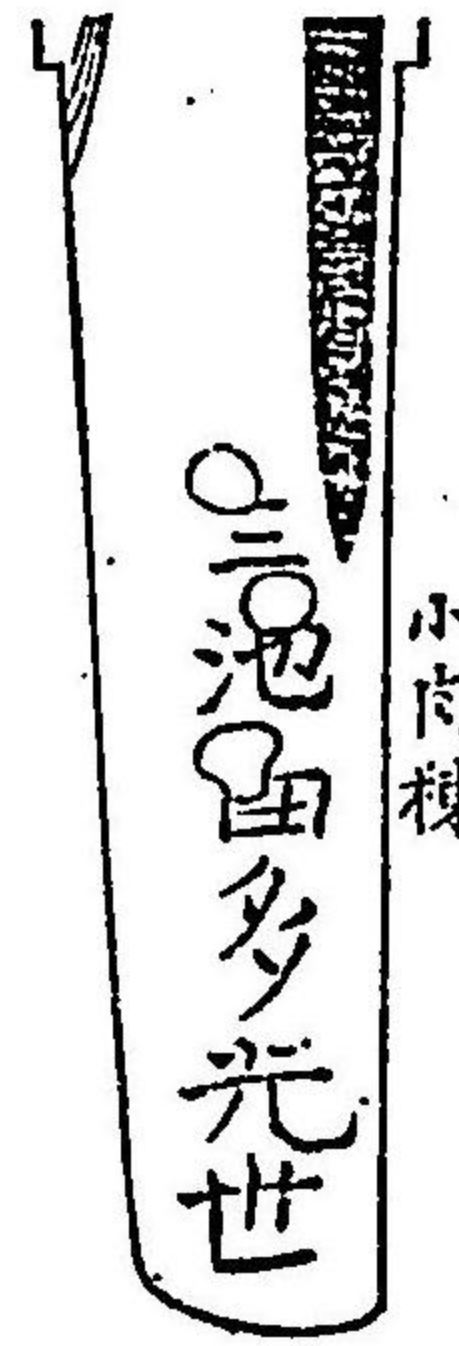
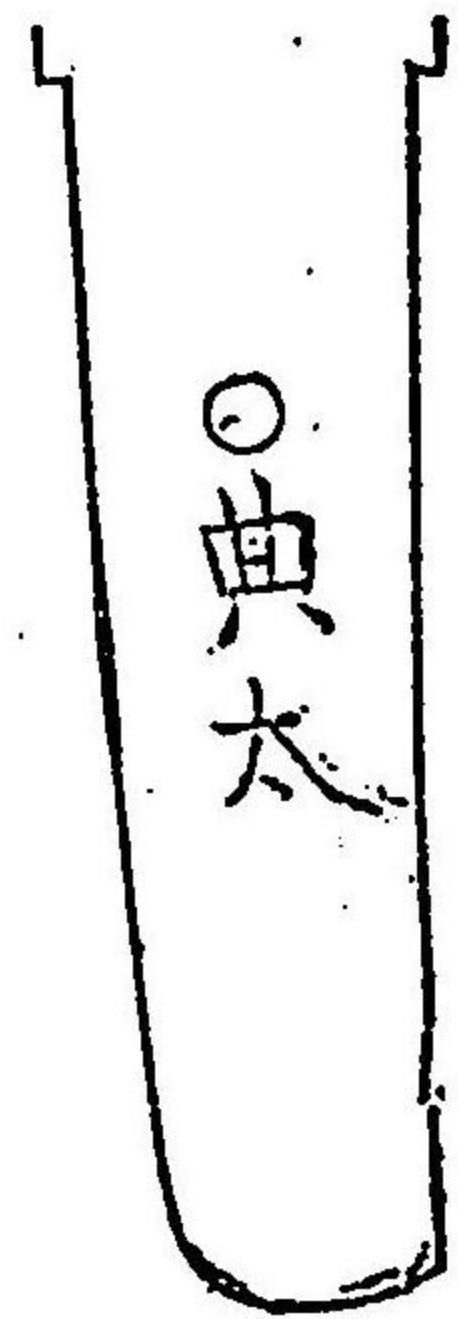
盛安

◎家盛

家盛

◎筑後國

◎光世 ◎元真



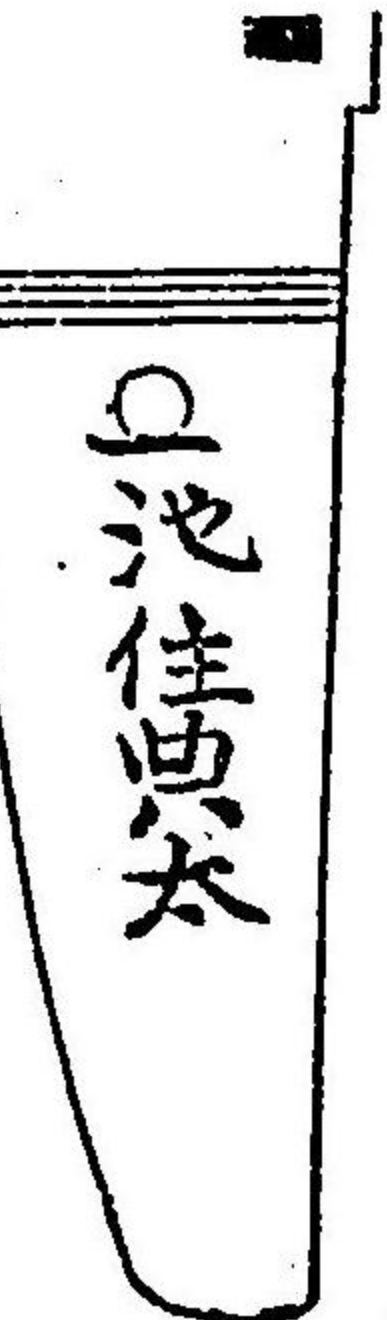
小肉棟

○元真

典太作

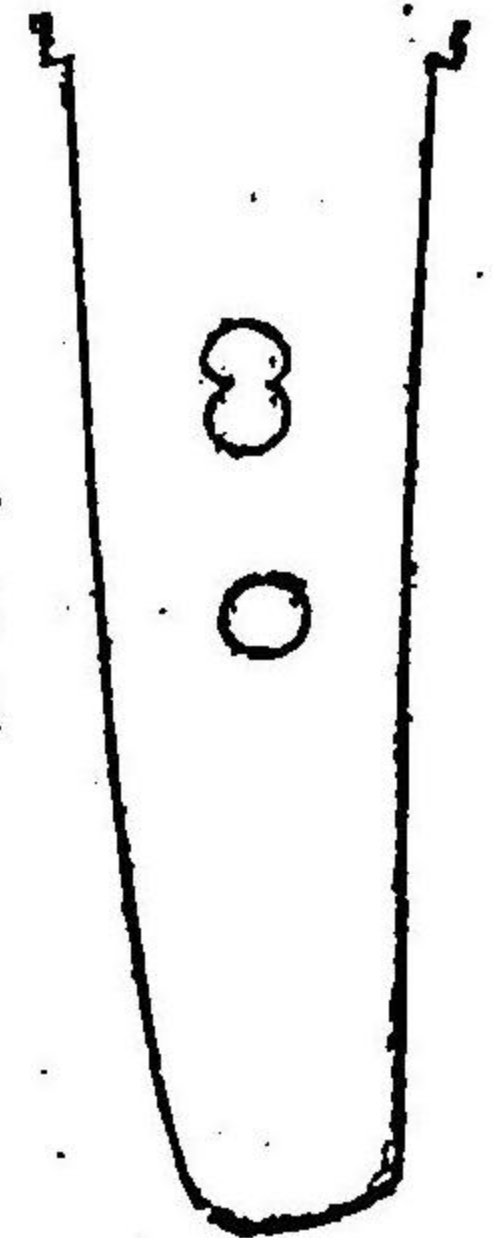
梨子 肌正 目

角棟

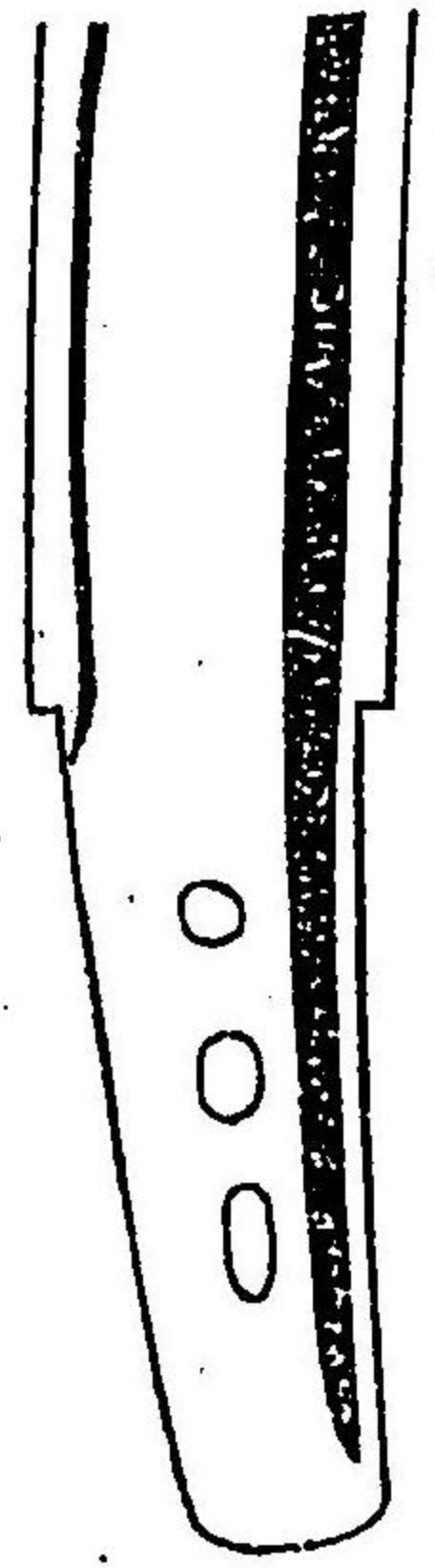


直刃にして少しく亂れ、砂流し
木工肌あり。

三池の元祖正世は、和銅中の人にして光世の父なりともいへり。典太は法號なり。元真又承保、承曆、永保の頃にして、亦典太と銘し又の長さ二尺五寸餘、莖浦造にして鑄高く、直刃多し。地鐵細かにして剛く、小沸匂ひ深く、梨子肌は、粟田口久國の風情ありて、鑑子のごときも京物又は千手院行信に似て、尋常の良工に超越したるものなること論なし。左に圖するところの無銘の平作りは、伯耆の安綱の肌に類して、大體は、筑紫鍛冶の風あり。特に此に掲げて參考の料に供せん。



小肉棟



双の長さ一尺六寸、鍔元一寸五厘。中心の棟は角小肉にして先薄し。鍔子は三日月はさかけうつり、地肌皆上品なり。

◎助永



小肉棟

◎武永

筑州住

小肉棟



◎顯久

◎利延

敦永

(表) 筑前

武永

(裏) 筑後



◎信國



縁小肉



小肉角

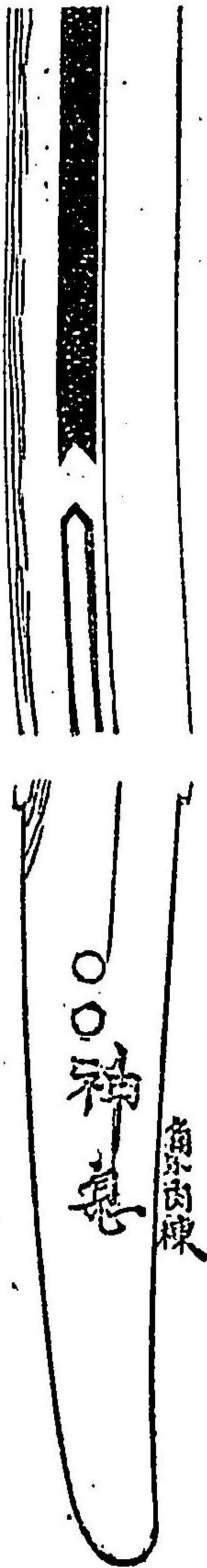
◎豊前國

◎神息



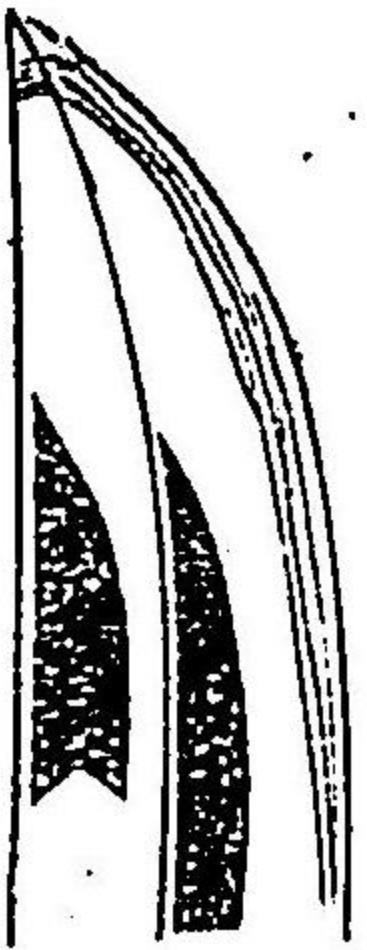
棟肉有

(二)

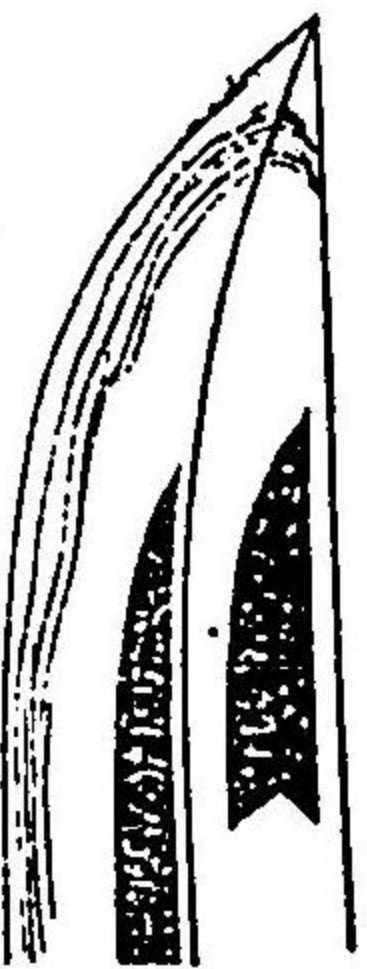


角肉棟

(三)



(三)



は 又の長さ一尺三寸五分、柄實三寸六分、反七分、裏平の樋は、表の 劍樋の止りに同じ。

◎定秀

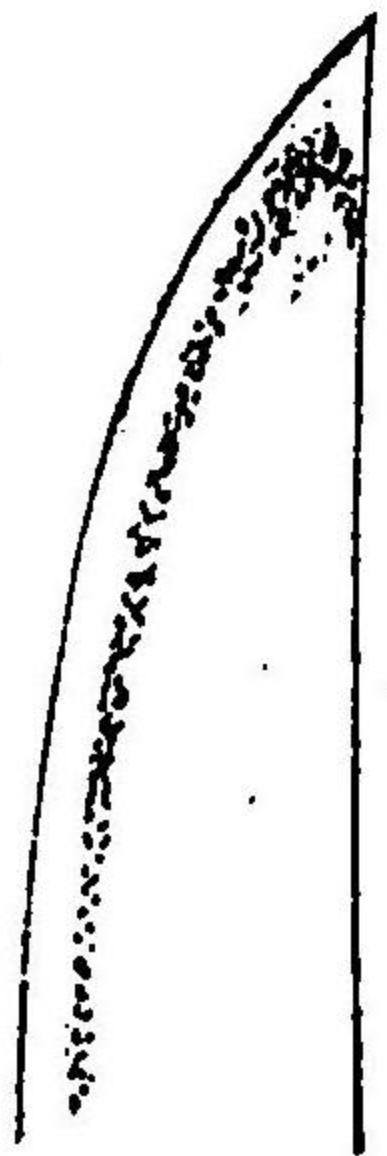


角棟肉

定秀は、彦山の學頭にして賢正坊、賢聖房又は源正房ともいへり。

「豊後國僧定秀」と銘せしものあり。又單に「僧定秀」と打ちしものあり。事は西海道鍛冶の部豊前の條下に詳記せり。尚ほ次項豊後の條を見るべし。

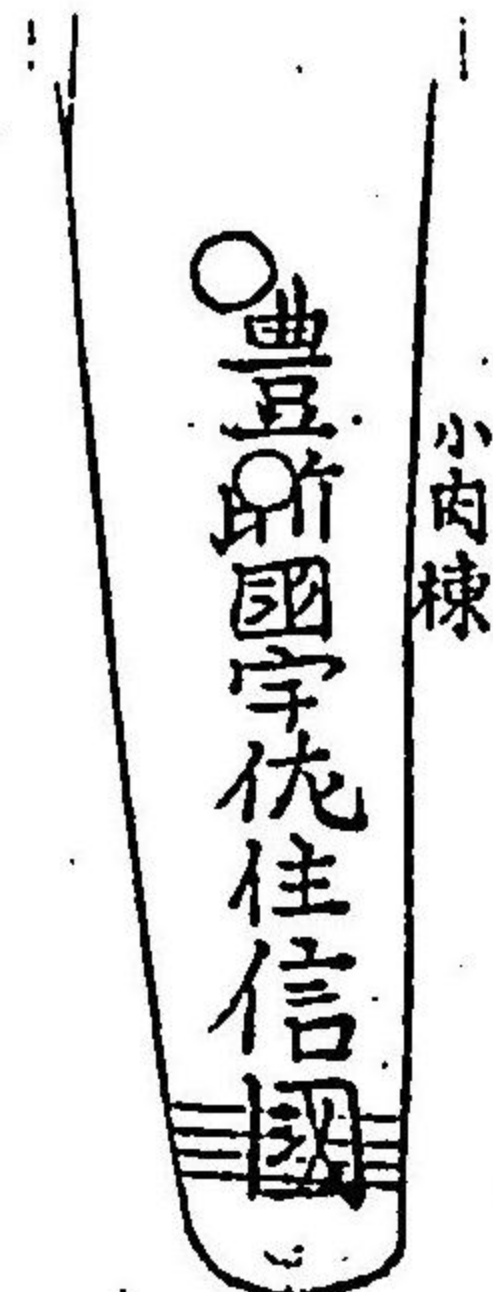
◎辛貞



棟角

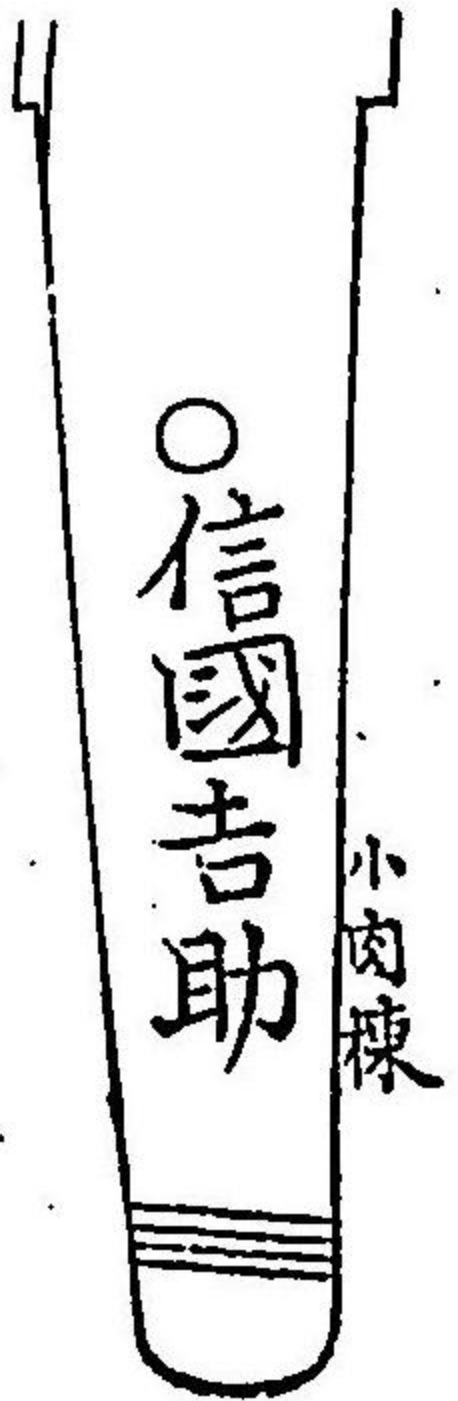
應徳二年二月日

◎信國



小肉棟

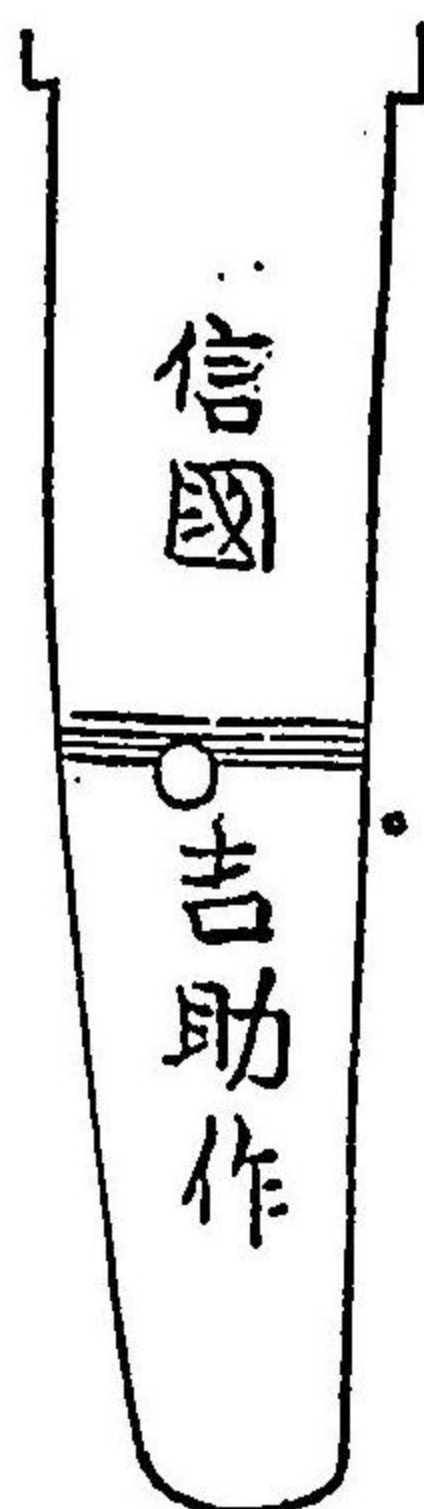
◎吉助



小肉棟

◎吉定

信國吉定



小亂交りにして、其の大體は、高田物勝家等のものに似たり。

◎守安

豊前國の守安

寛正二年の作にして直双なり。三原物に似たり。

◎豊後國

◎行平

棟内

豊後國行平作

角棟

豊後國行平作

豊後國行平作

豊後國行平

豊後國行平作

◎紀新太夫行平

◎豊後國住人

行平は、定秀法師の門人にして、紀新太夫と號す。其の作に成れる太刀の姿は、三つ棟多く、間々庵棟のものもなきにあらず。鍛板目細かに、亂れ、直双ともに、双の中に白糸を引きたるがとき木工肌ありて、亂れに連れて巡れり。沸多く、匂ひこまやかにして深く地鐵能く冴わたり。鐺物は二尺八九寸ばかりより長きものは、殆ど稀なり。鍔子は杉形にして返り淺し。

◎定秀 ちやうしう



小肉棟

僧定秀



定秀



豊後國僧定秀

僧定秀



◎安吉 あきよし



◎定慶 ちやうけい

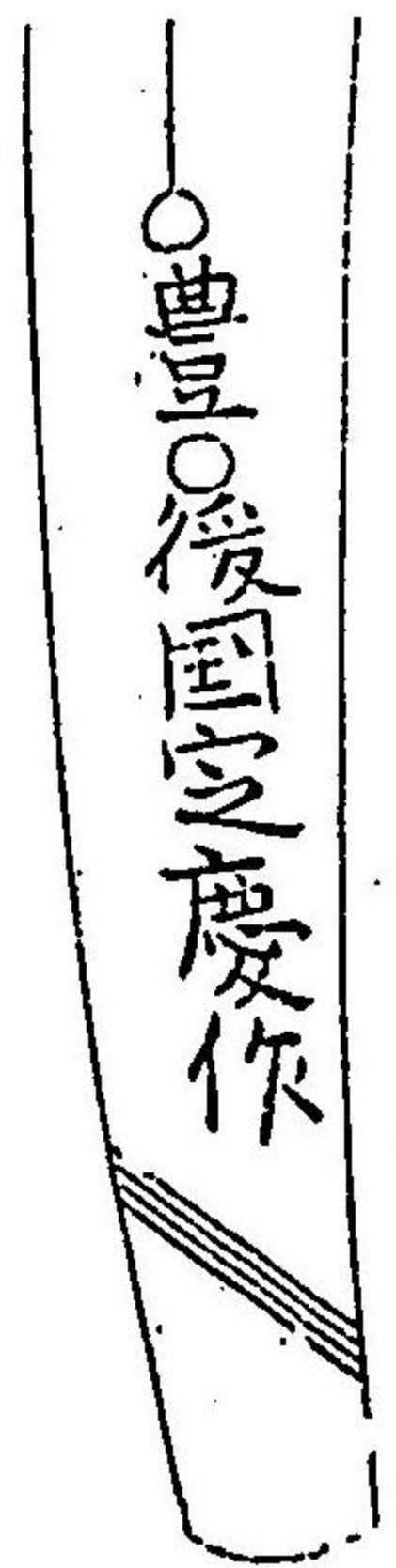
角小肉



豊後國○僧定秀

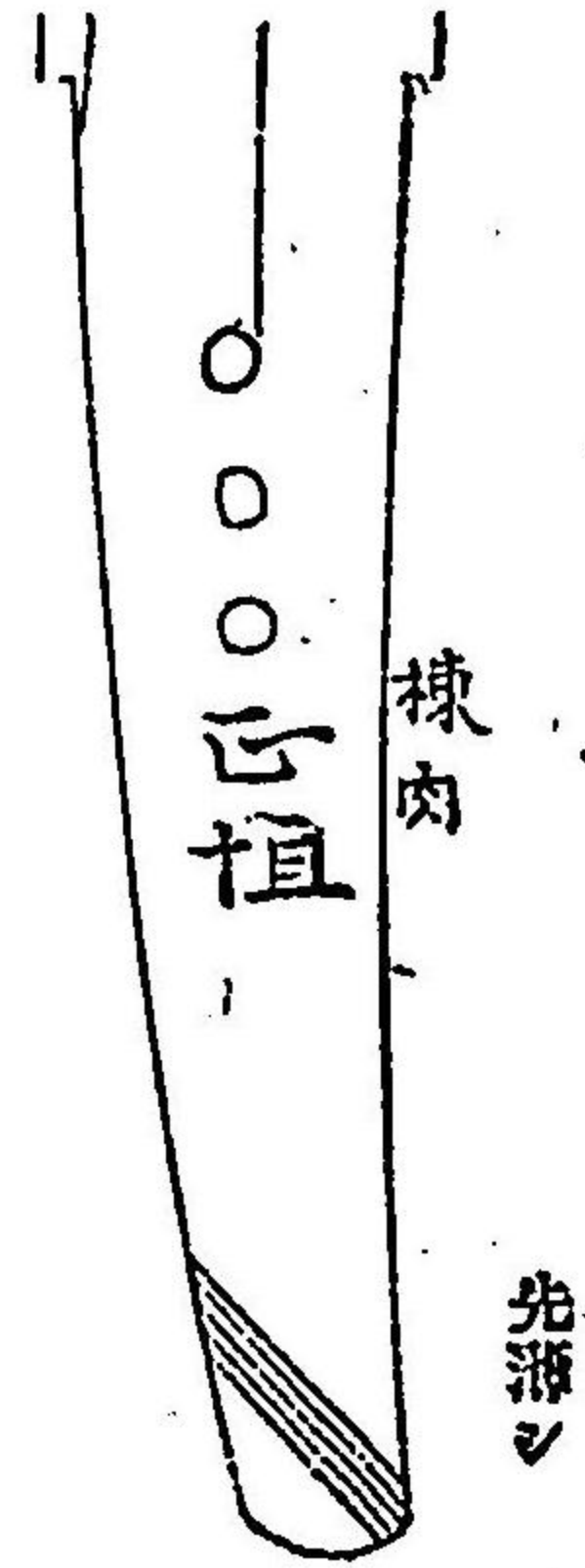


丸棟



行平の子にして法師なり。

◎正恒



正恒

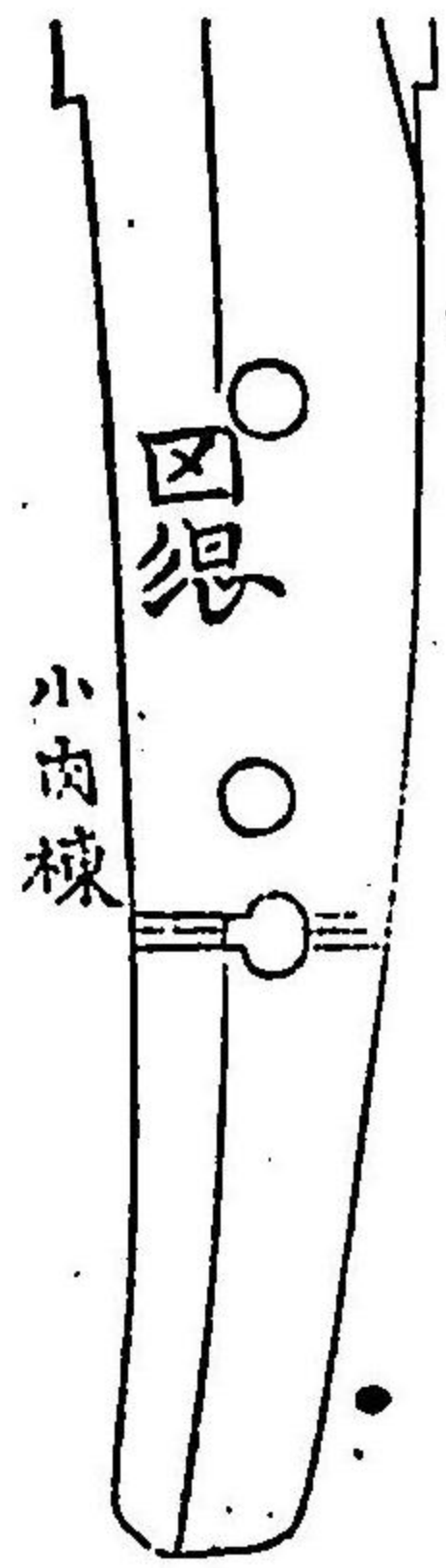
正恒の焼刃は、行平に同じく、少しも異なる處なし。

◎安則

此の作には無銘のもの多し。而して多くは瓜實形の目貫穴あり。故に世これと呼んで瓜實安則と號す。又銘あるものは、概ね左のごとものなり。

安則

◎國綱



國綱

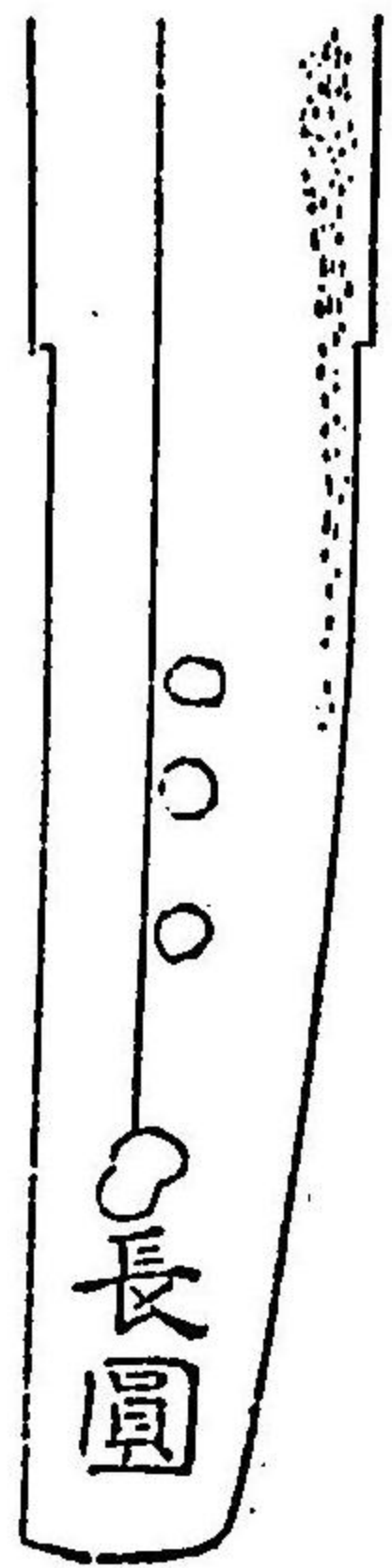
◎國繼



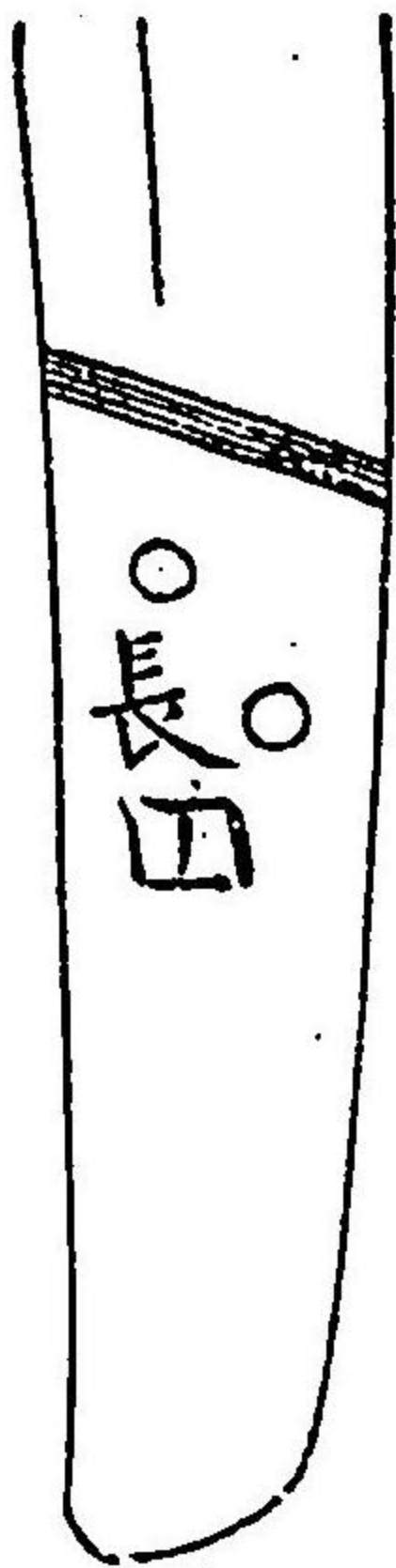
國繼

◎長圓

角棟

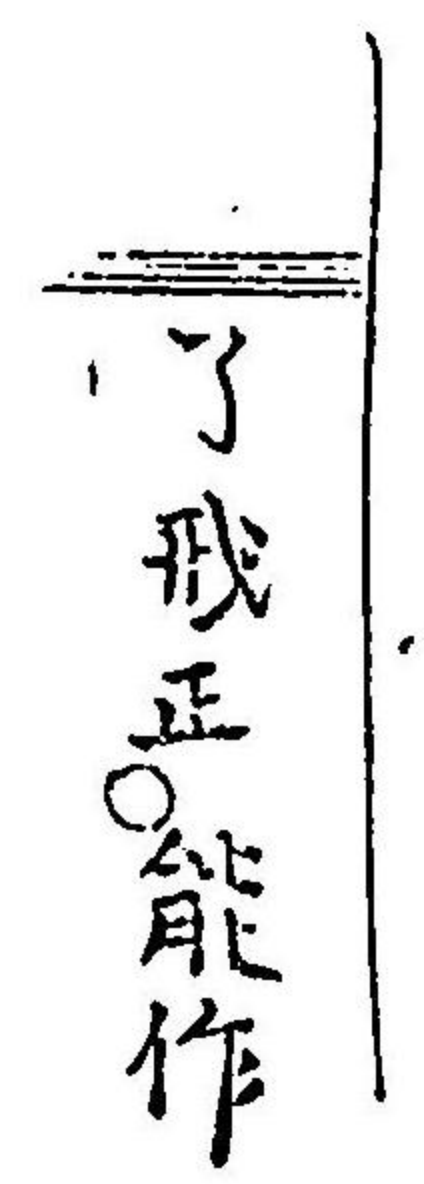
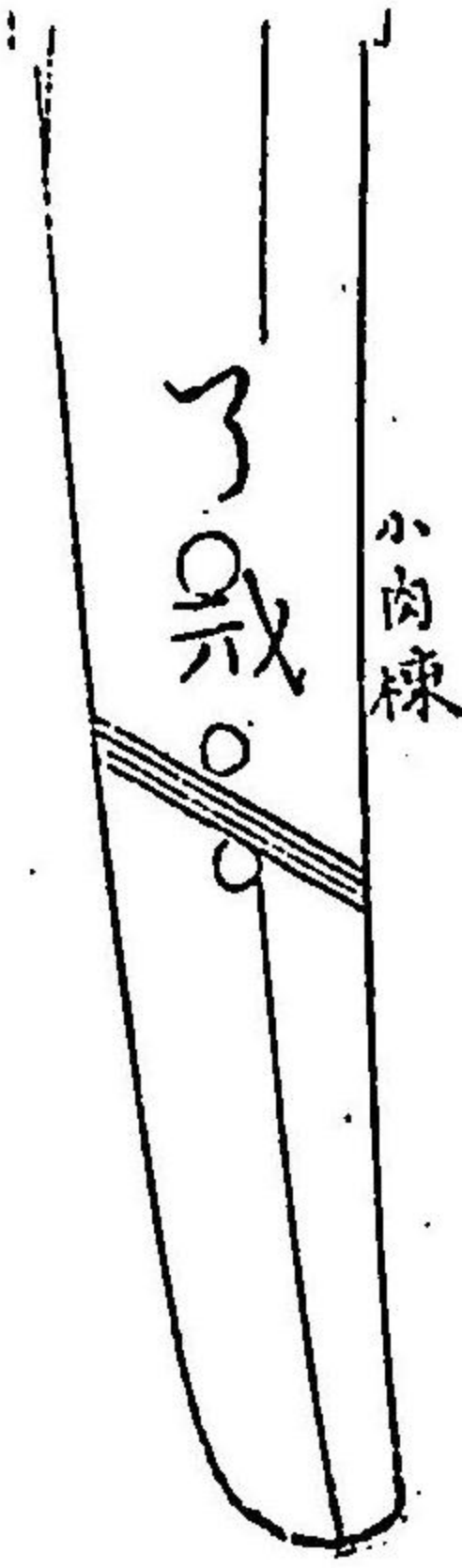
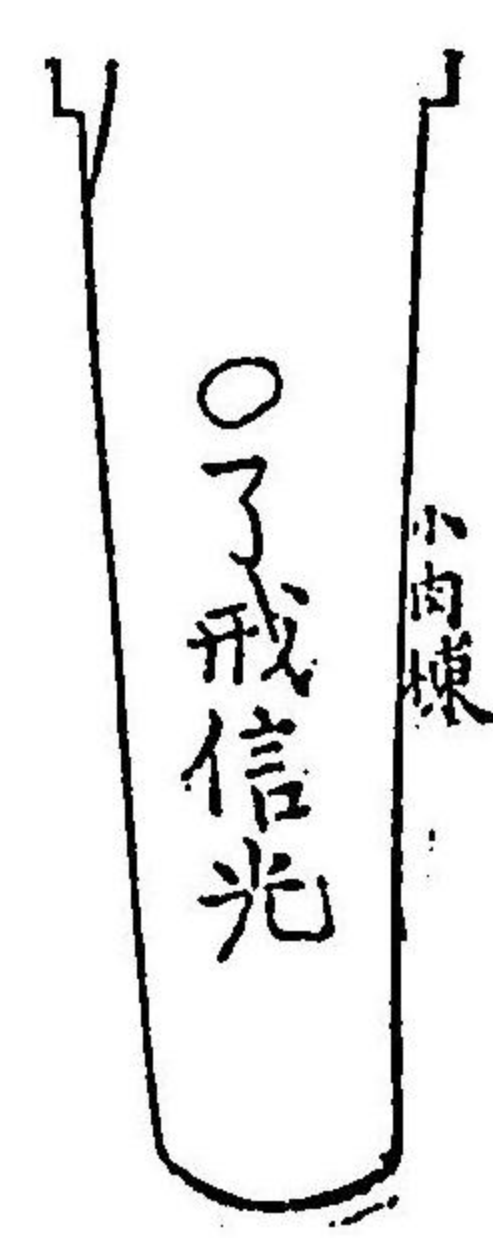
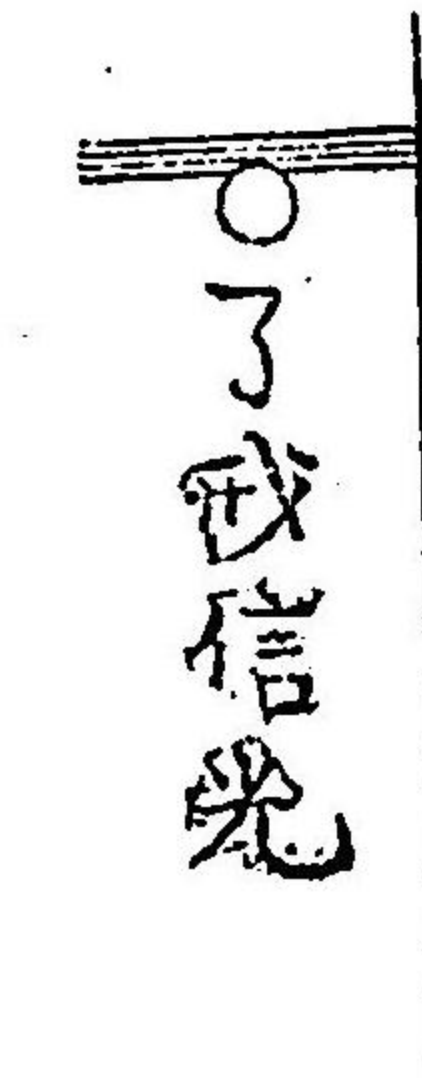
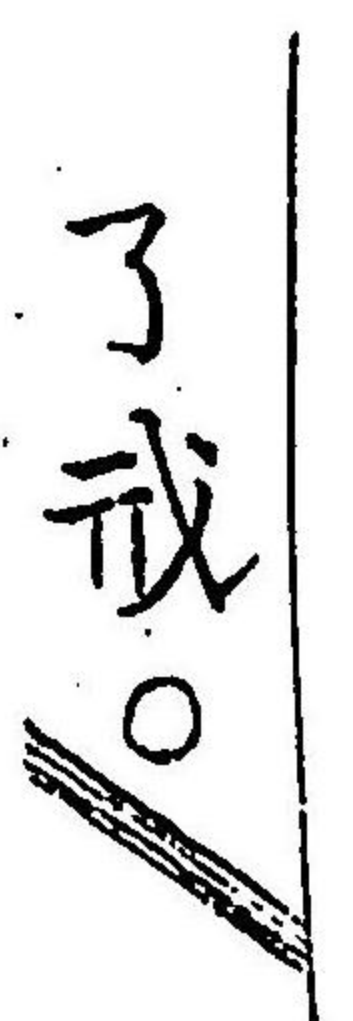


長圓



長圓は、大和、陸奥、筑前、筑後及び豊後にも住せり。其の作は、三條小鍛冶宗近に似て三池の肌あり。鉋子は大和物に類して巧なり。

◎豊後了戒

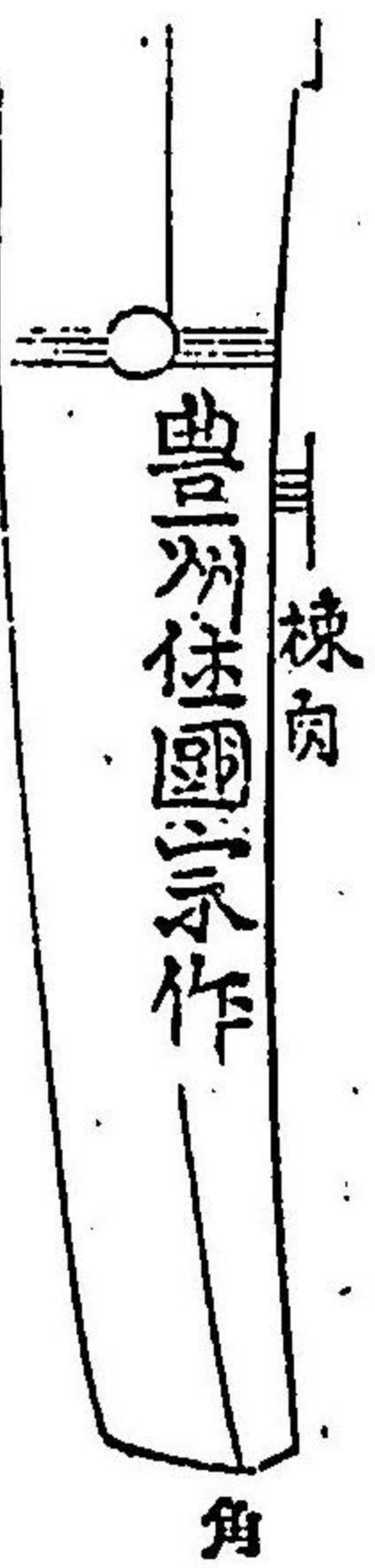


京師の了戒定光、筑紫に來り、豊前の宇佐及び豊後に住す。其の一族多くして治工の名あるもの少なからず。依て豊後了戒の稱あり。

筑紫信國と號するは、此の末孫にして筑前に散在せり。右に圖示したる所のものは、其の一斑のみ。

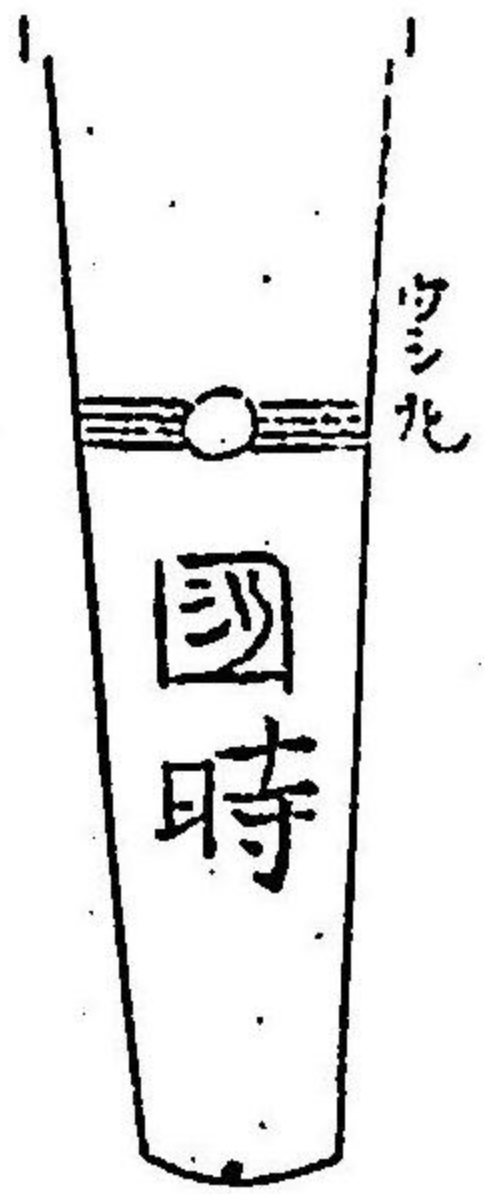
◎國宗

(裏)



◎國時

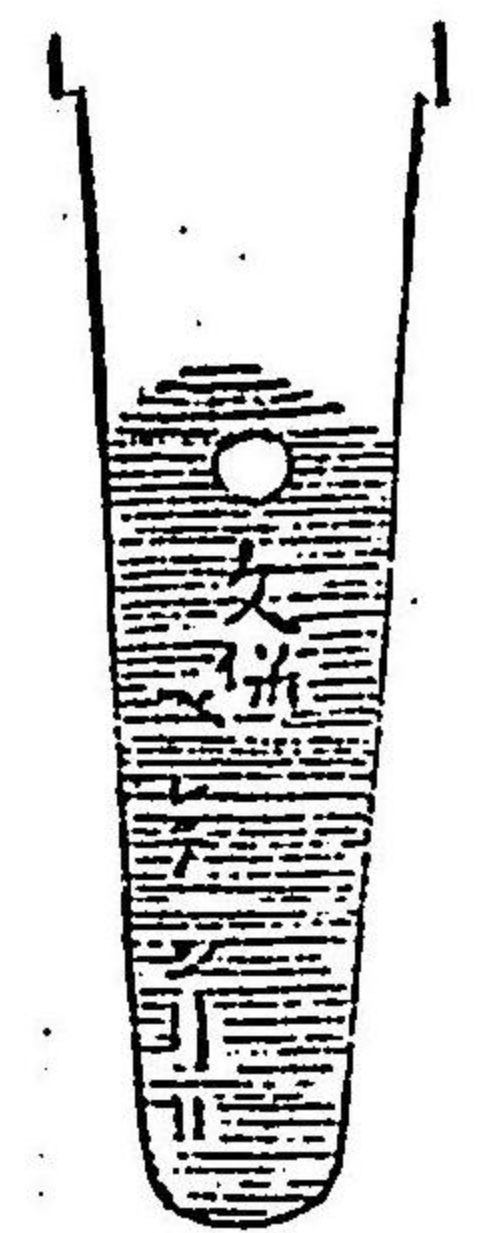
(裏)



(裏)



(裏)



此の作は、二代目國時なり。裏のごときは年號を打ちて鑑を掛く、是れ此の作の習なりと云ふ。

◎國重

豊後州住人國重

應永十八年

◎友行



◎勝盛

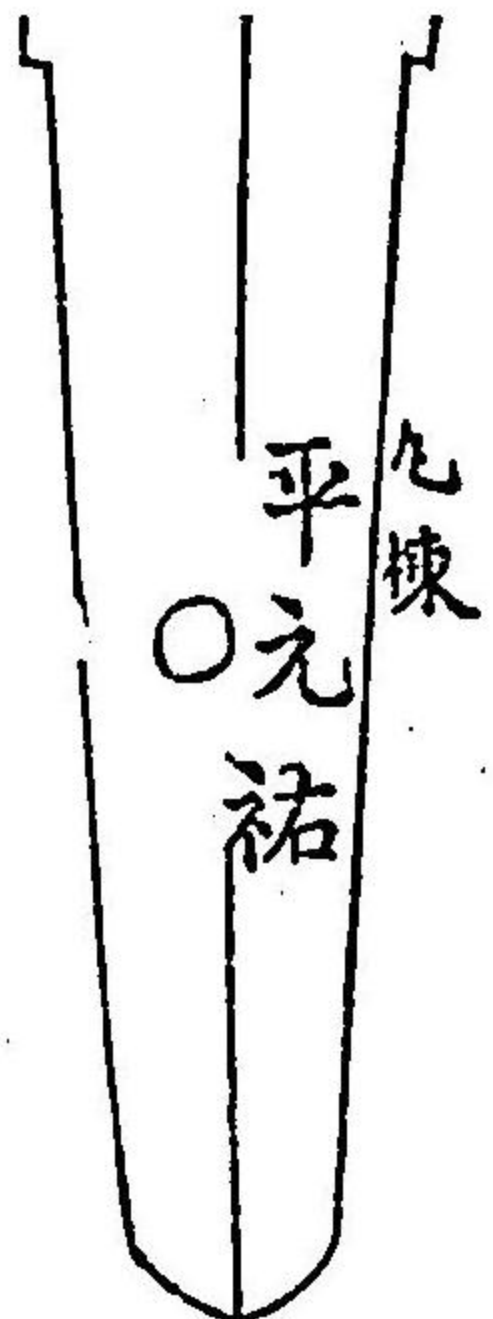


◎泰行チヤウコウ



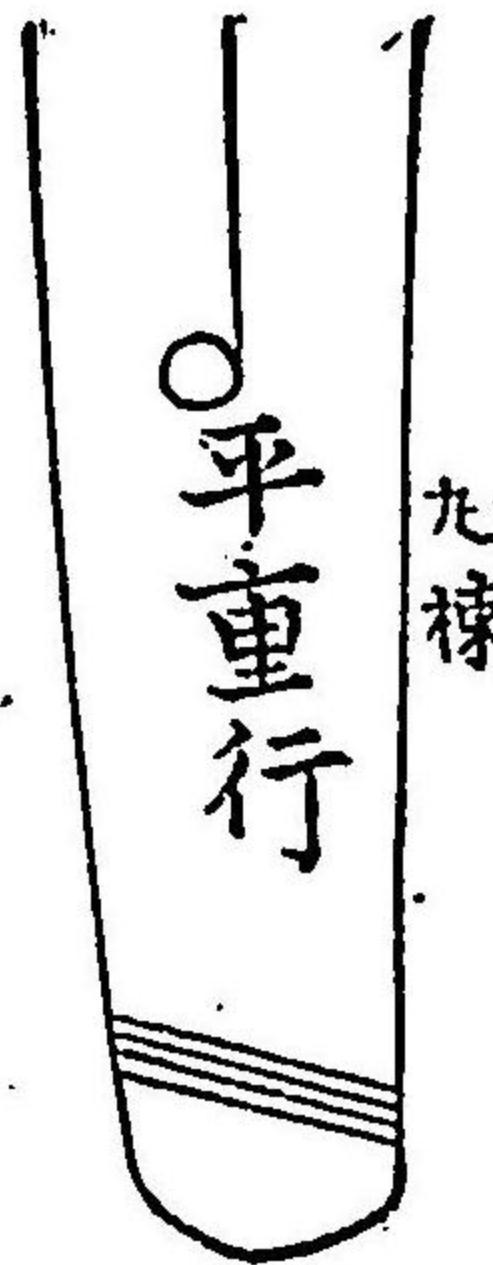
丸棟

◎元祐ゲンユウ



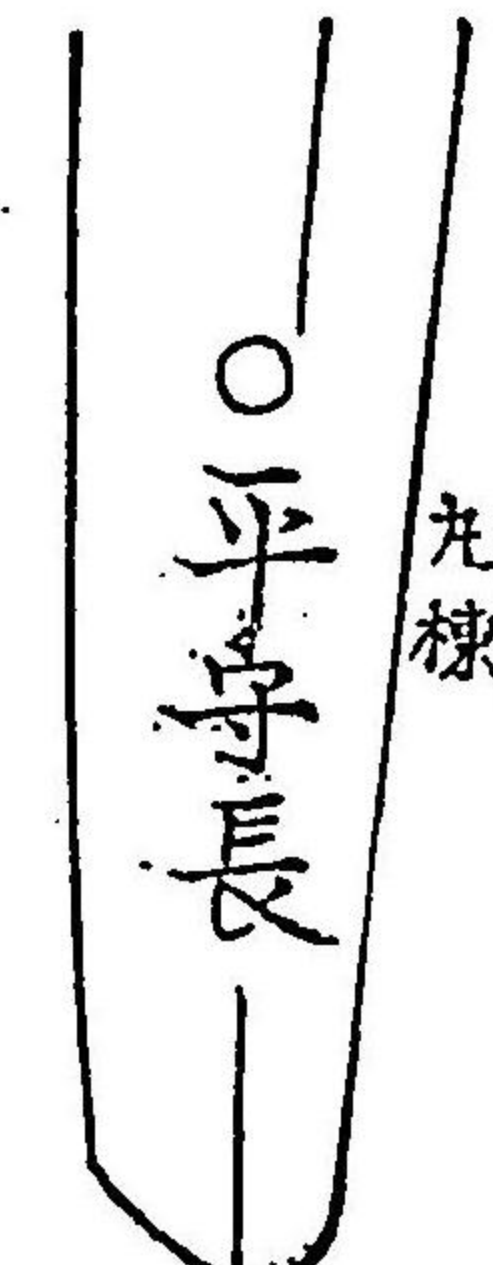
丸棟

◎重行チウコウ



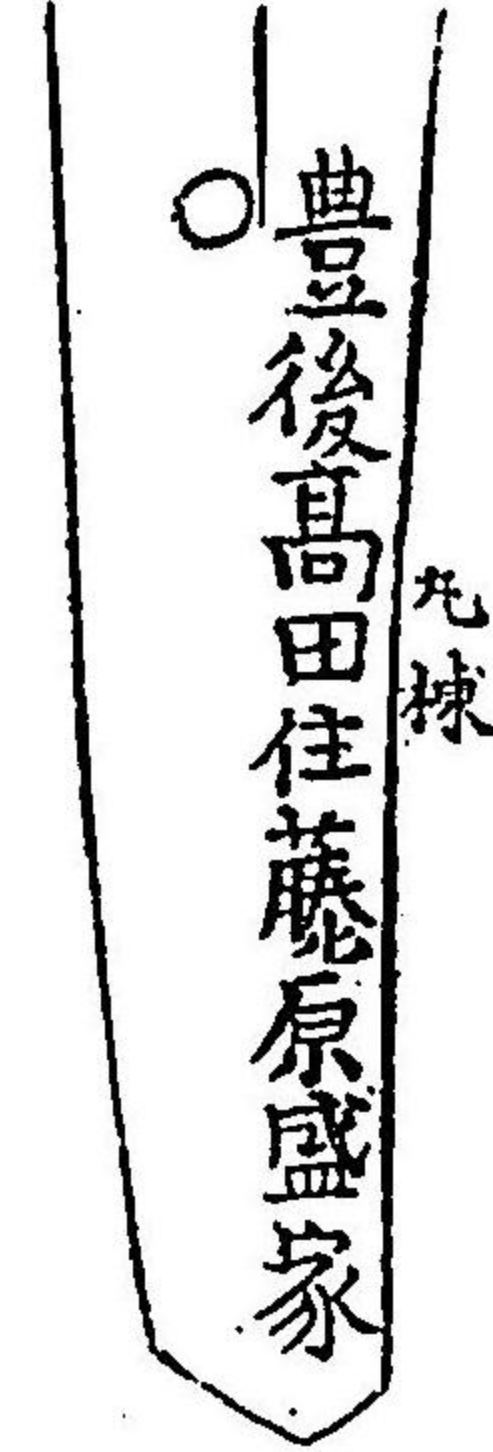
丸棟

◎守長シュウチャウ



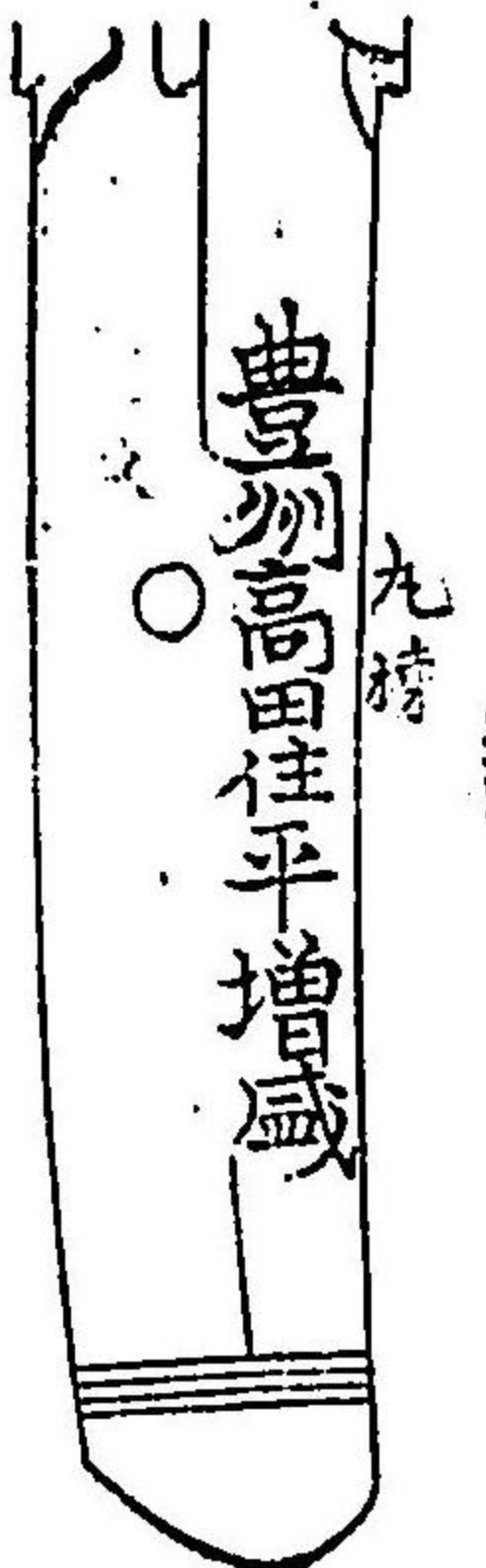
丸棟

◎盛家セイカ



丸棟

◎増盛マサキ



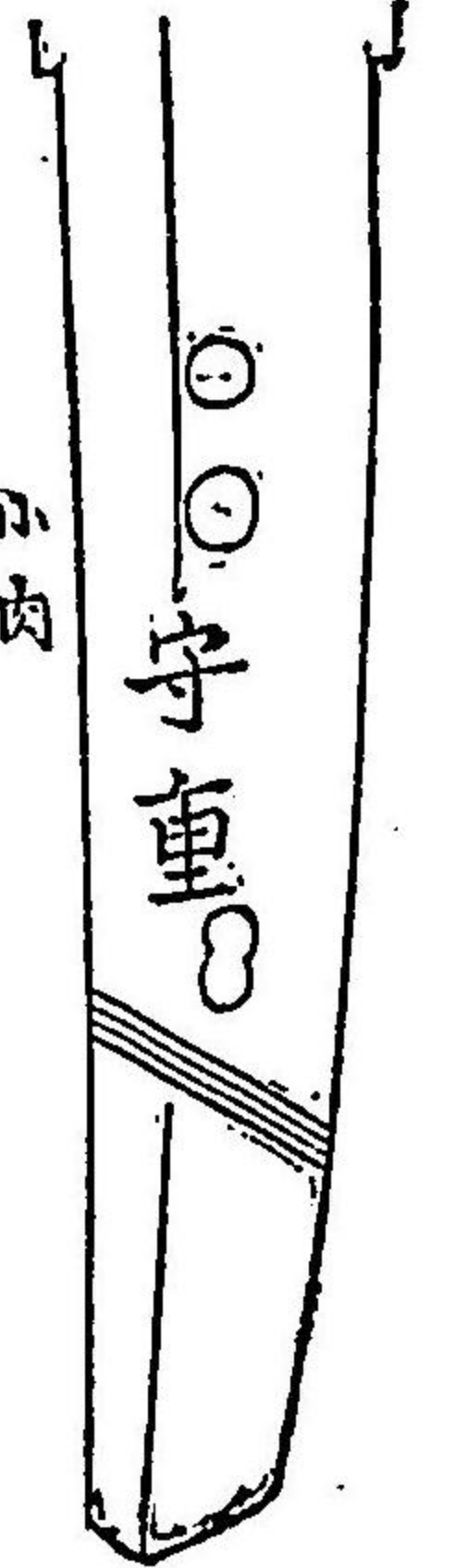
丸棟

(表)

天文六年チウニ二月日

(裏)

◎守重シュウジュウ



小肉

嘉吉文安ノ頃

豊後トウゴウ守直大助

角棟

角

◎鎮教チンキョウ

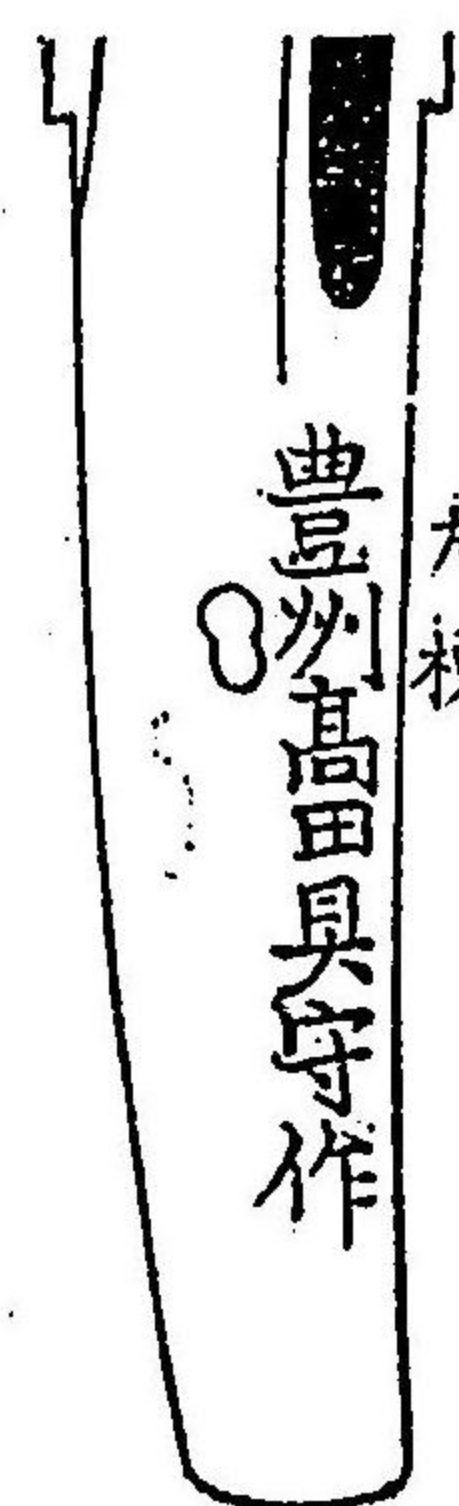


丸棟

系圖の外にして天文頃なり。

◎具守

(表)



丸棟

(裏)

永正三年二月日

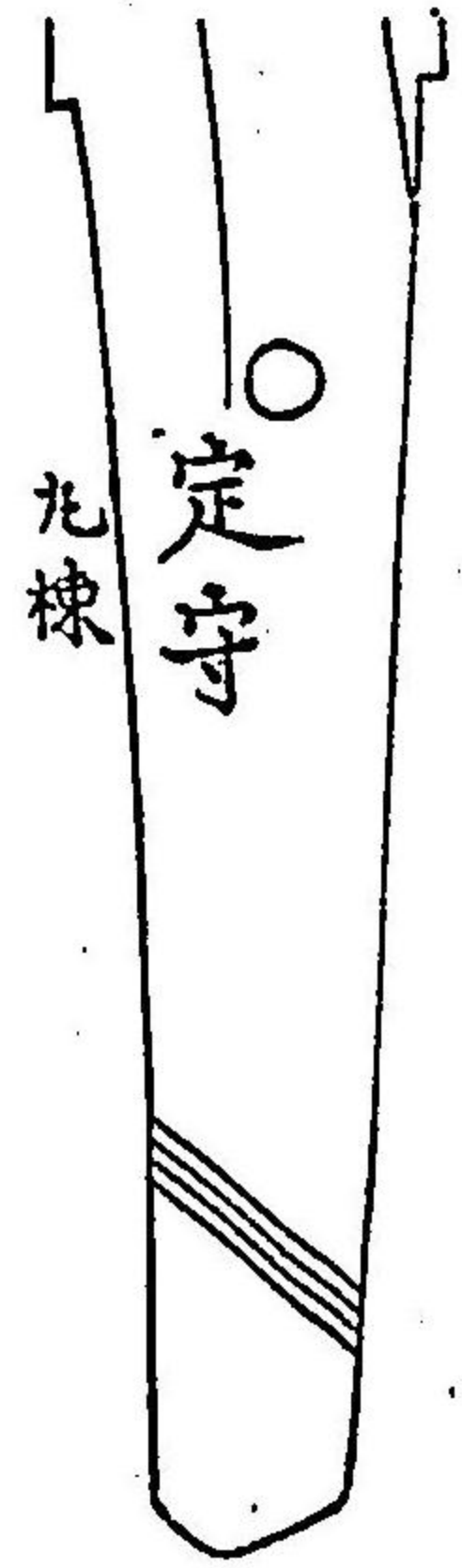
◎盛次

丸棟



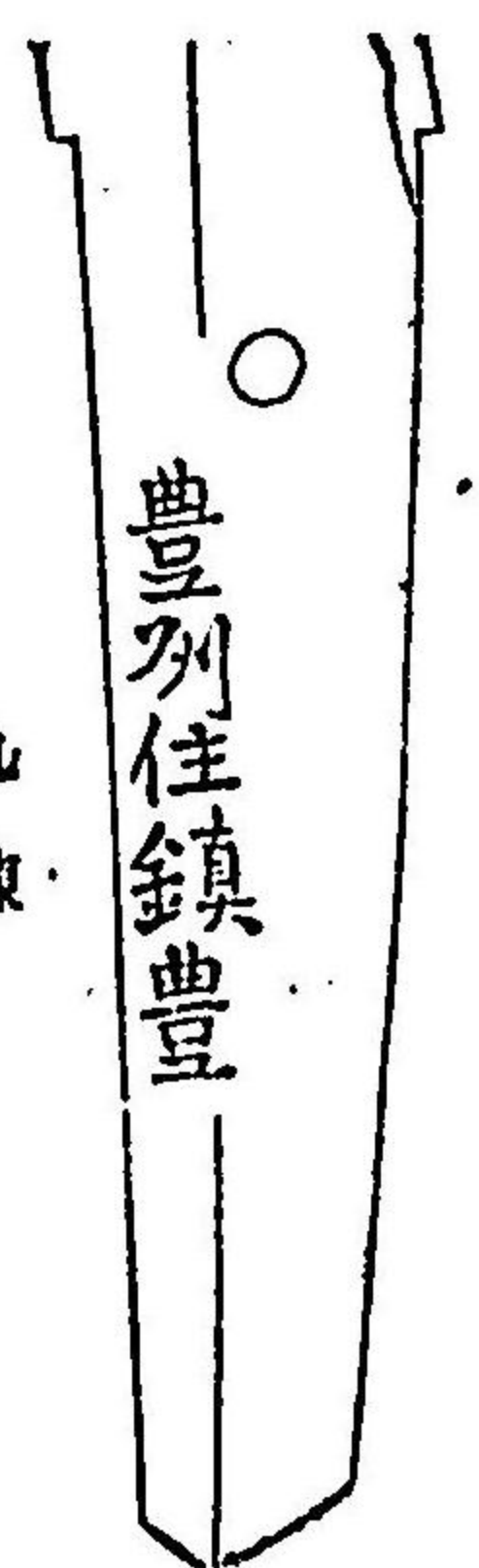
◎定守

丸棟



◎鎮豊

丸棟



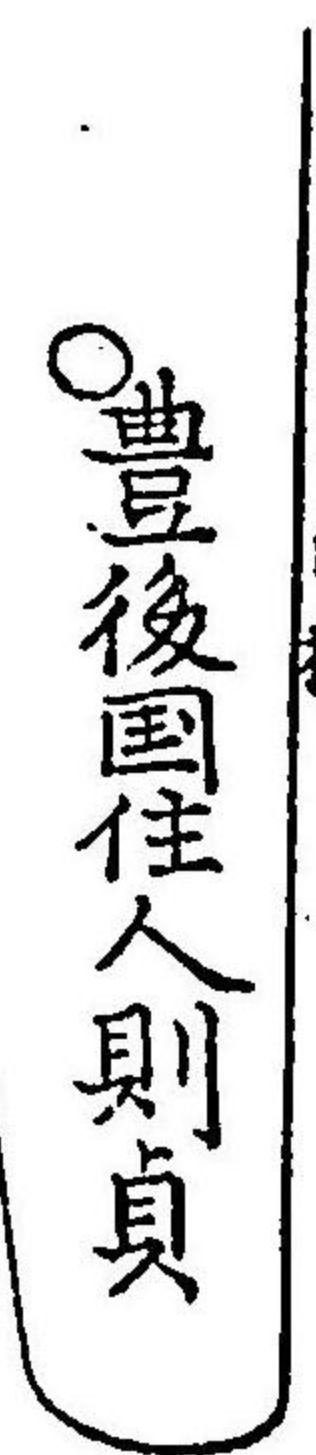
◎長盛

小肉棟



肉棟

寶徳三年



豊後高田の鍛冶は、友光、友行を首とす。思ふに是は、安則、安光等の末流ならんか。右に圖示せる處の平姓長盛以下數十工、皆應安

◎盛吉

平戸○佐衛門四郎

小肉棟

平戸○佐衛門

◎國久

肥州○高来佳国久作

小肉棟

◎末員

肥州住末員

小肉棟

菊池の末にして後年肥前龍造寺に住す。

◎末秀

肥州住末秀

(裏)

文明三〇年八月日

◎重延

肥石濱崎住重延

◎宗重

平戸○住宗重

(表)

(裏)

广永廿九年八月日

右は鶴首作りにして長刀樋添樋あり。のたれ沸る。

(表)

(裏)

平戸住宗重

小肉棟

應永八年二月日
應永〇世三月日

◎有國

肥後〇州有國

亂刃にして銚子沸に崩る。中心の先は栗尻なり。

◎肥後國

◎國村

角棟

國村

國村

國村

◎國時

角棟

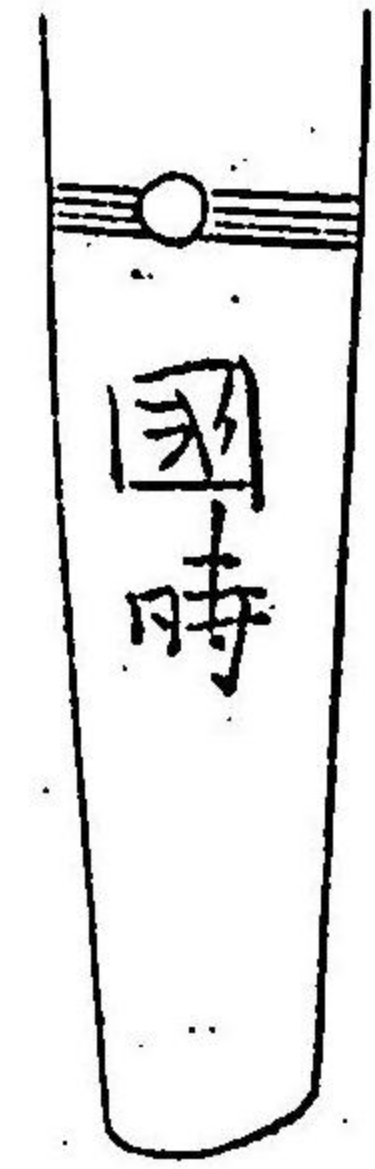
國時

角小肉

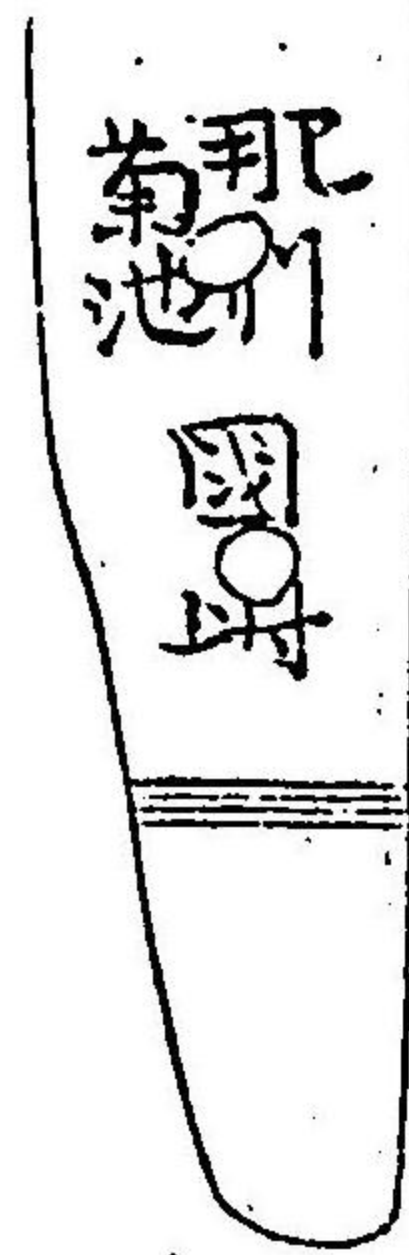
肥後〇州
肥後〇池
國時

肥後〇州
菊池住國時

國時



直又少し亂る

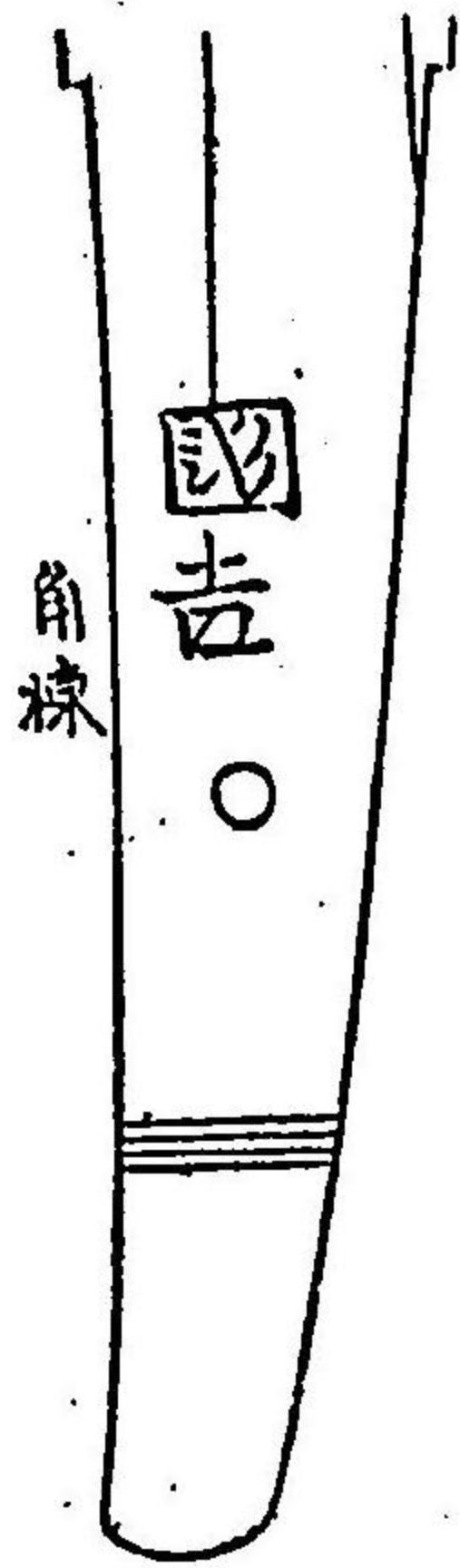


國時 國村

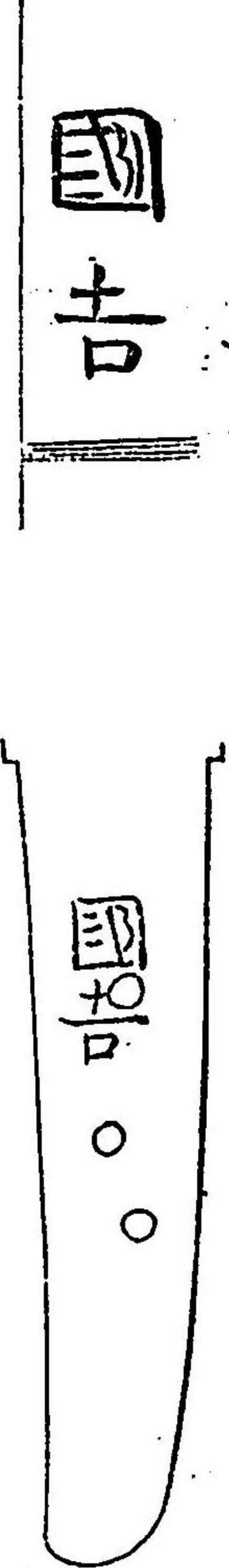
○風州菊又仁國時

國村は、延壽太郎と號す。或ひは菊池來とも云ふ。其の太刀姿は、來一門に同じ。刀には三つ棟もあり。鍛正目にして直又の名工なり。洲細かに、匂ひ深し。地膚締りて青く、銕子は杉形にして返り少し深き方なり。國時の作も亦略相同じ。

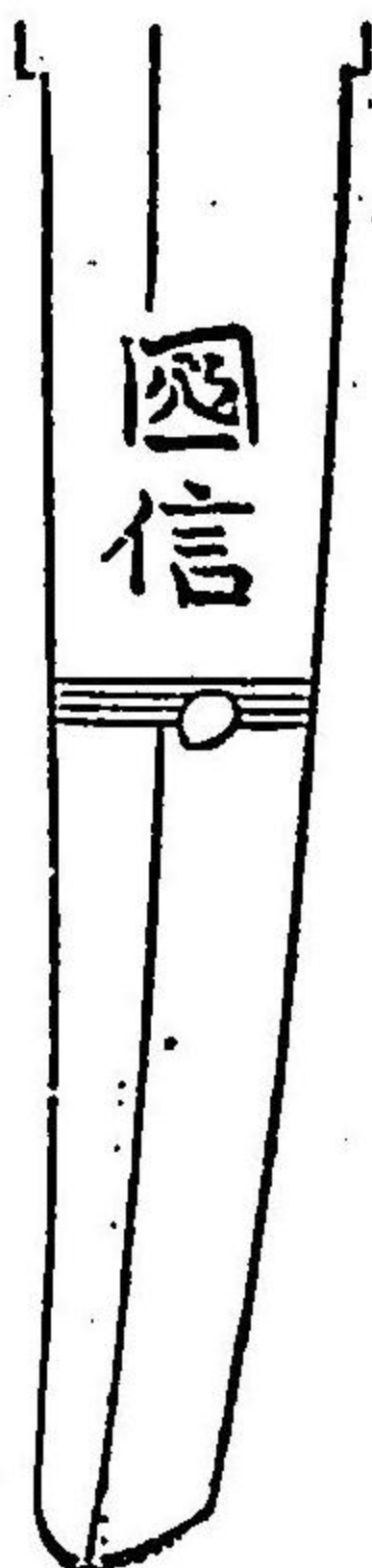
◎國吉



國吉



◎國信

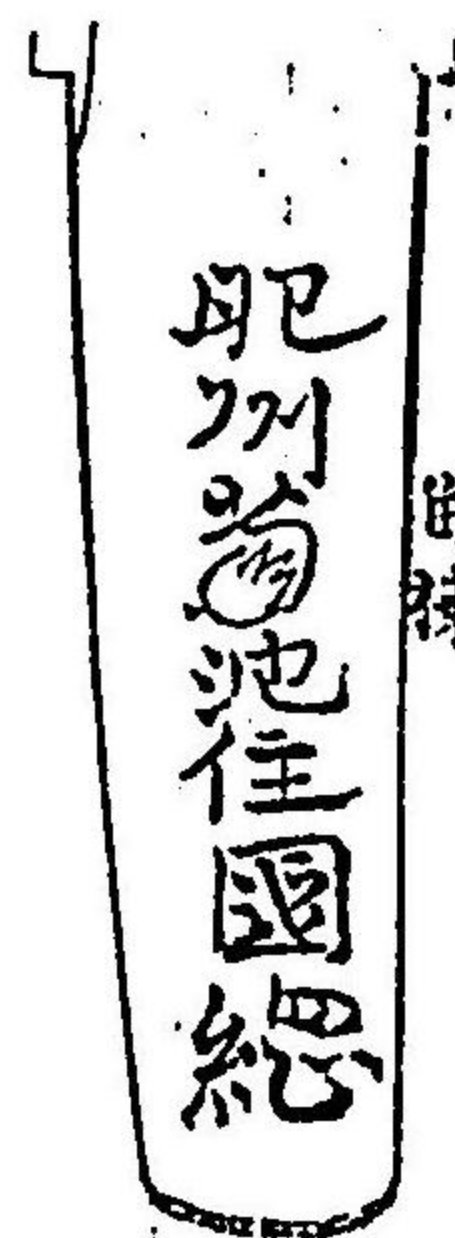


◎國資

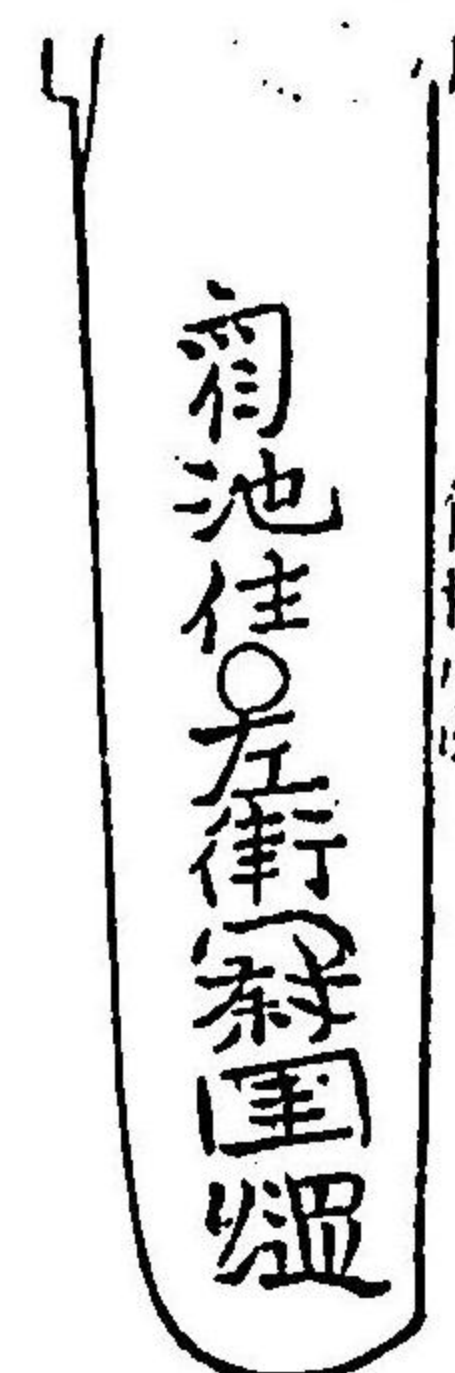
國資

◎國綱

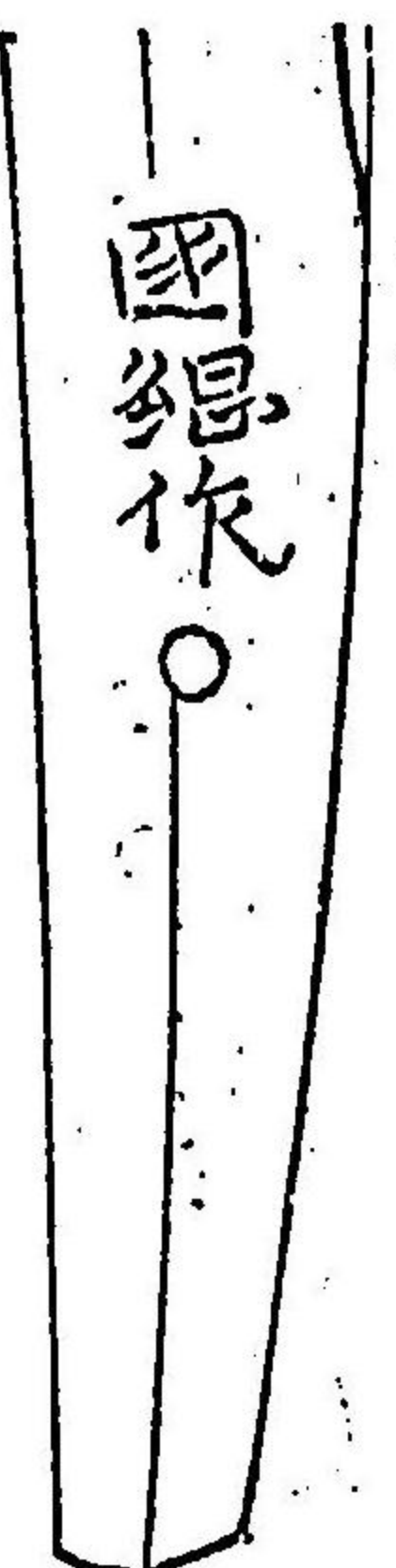
苗棟



苗棟小肉

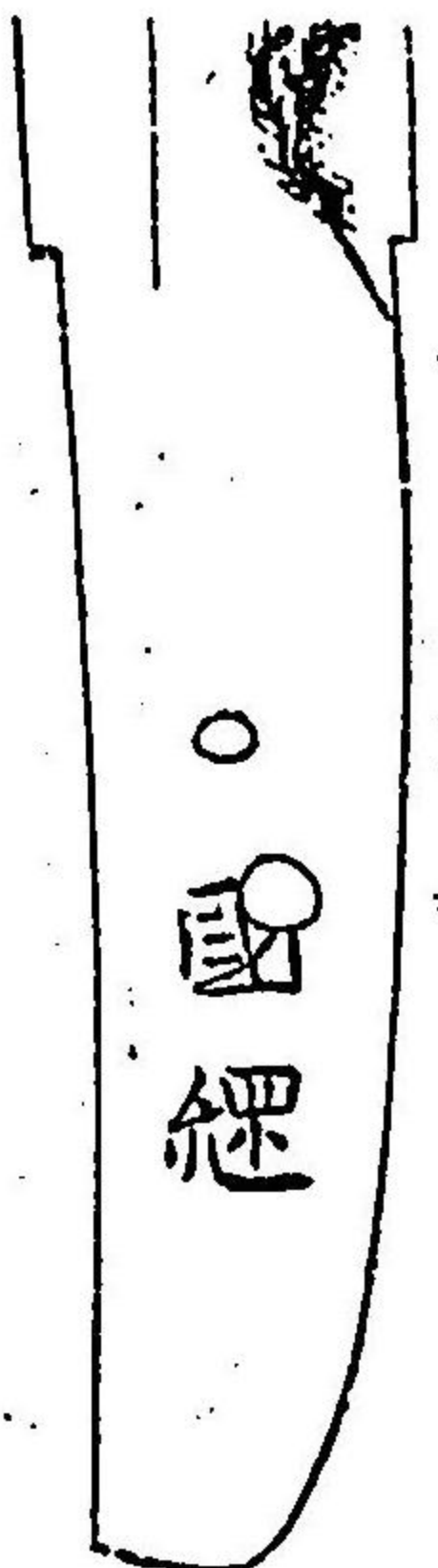


◎國重



大風刀

○國繩



三棟深シ



角棟

○國重

◎國元

角棟

肥州菊池住國元

◎國明

肥州菊池住國明作

◎行吉

角棟

○行吉作

國重

國重

◎國宗

角棟

肥州菊池住國宗

中原國宗

嘉元三年

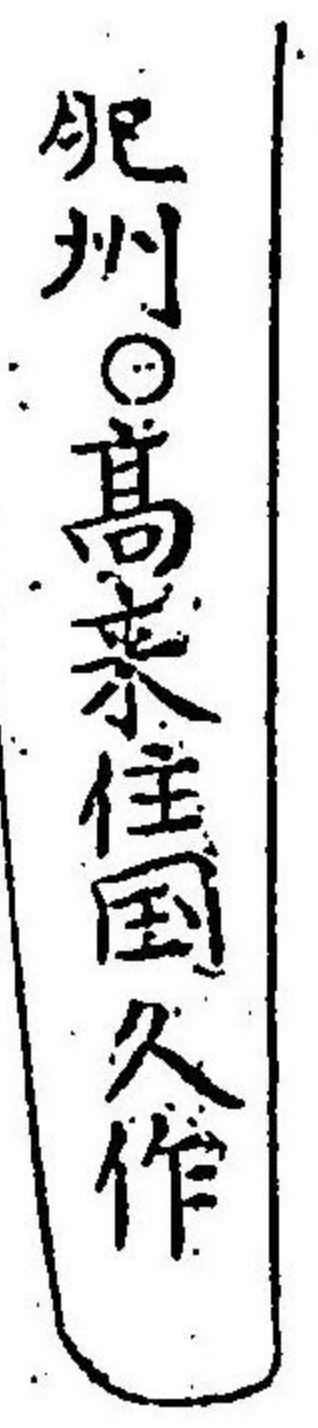
◎國清

肥州菊池住國清

○肥州菊池住國清

角棟

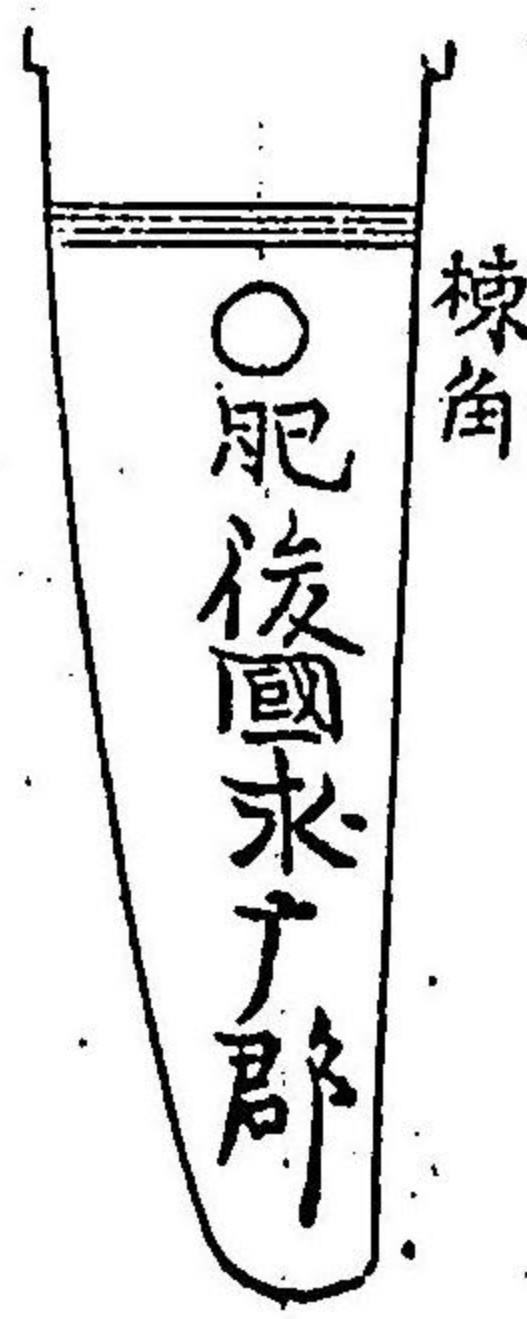
◎國久



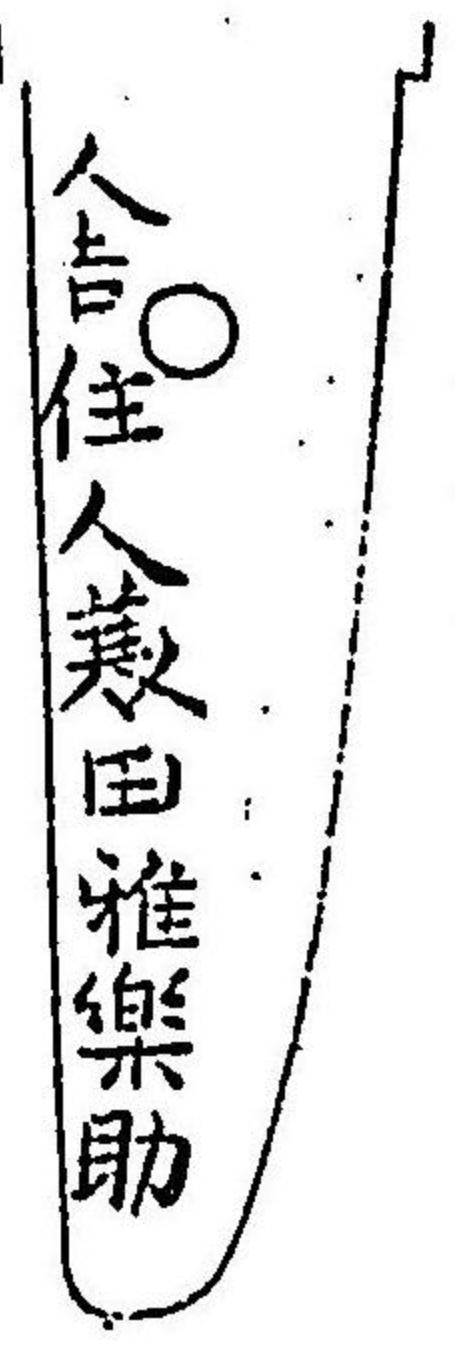
直刃にして則重の風あり。重ね厚くして木工あり。

◎雅樂助

(表)



(裏)



右二圖棟は角にして筋違鑑、ぐのめ亂れにして棟焼あり。少しく反りたる方なり。沸あり。長さ一尺二寸九分あり。又中直刃にして少しく亂も交り、銚子のはさかけるもあり。

◎正祐



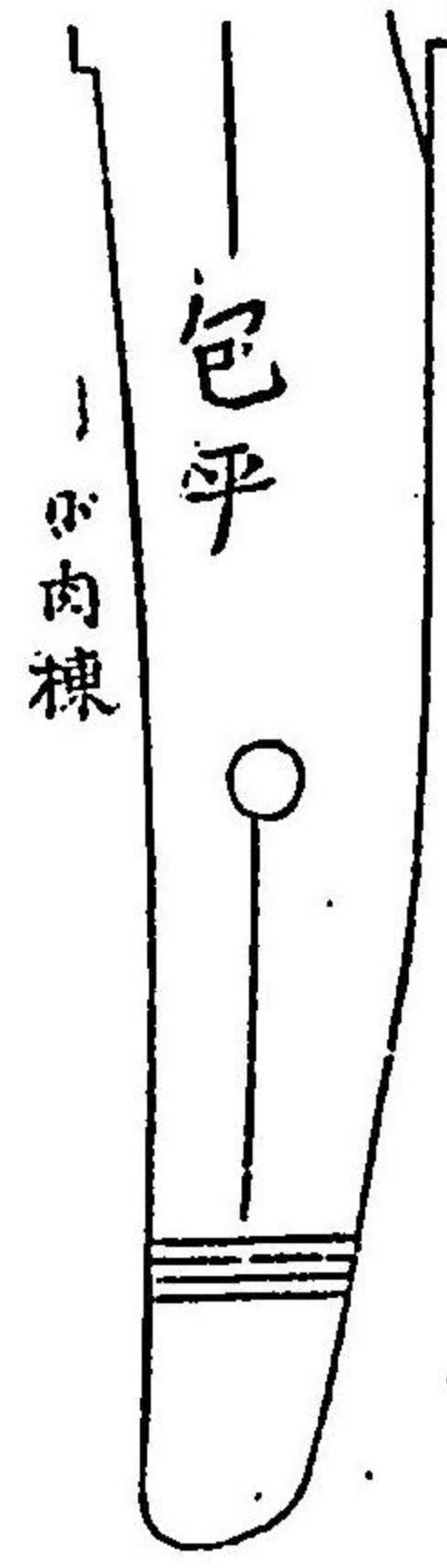
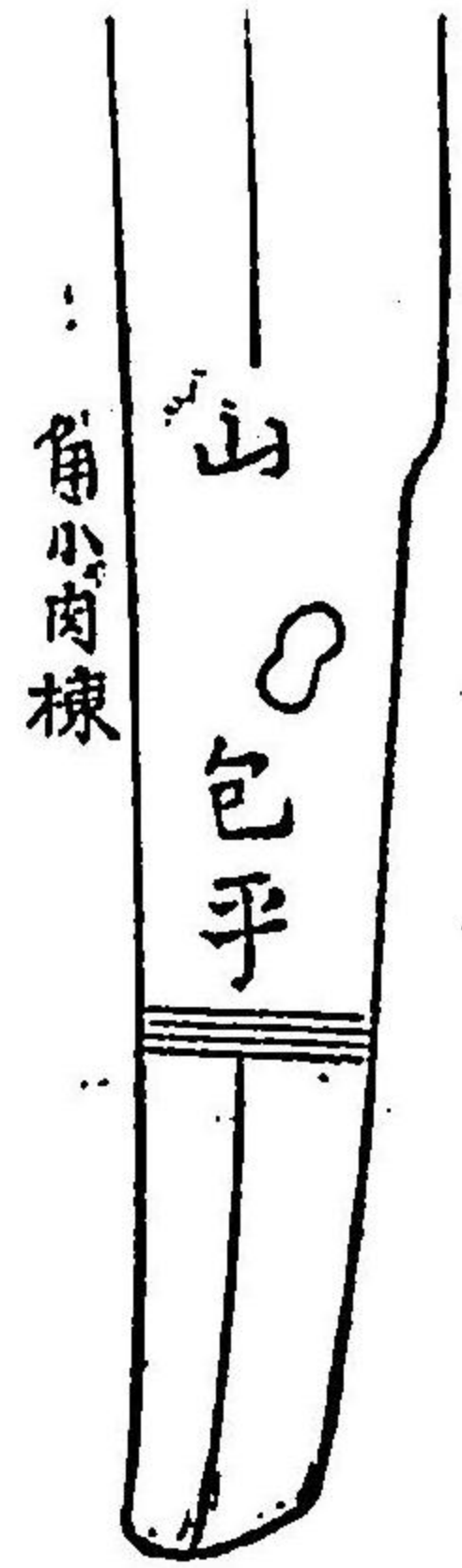
應永三十四年の作にして、砂流し肌焼あり。一乗の作に似たり。

◎元次

肥州元次作

長亨二年の作にして、三池物に似たる廣き樋あり。銚子丸し。

◎包平



◎國治 (表)

(裏)

◎薩摩國

永正二十二年十月吉日

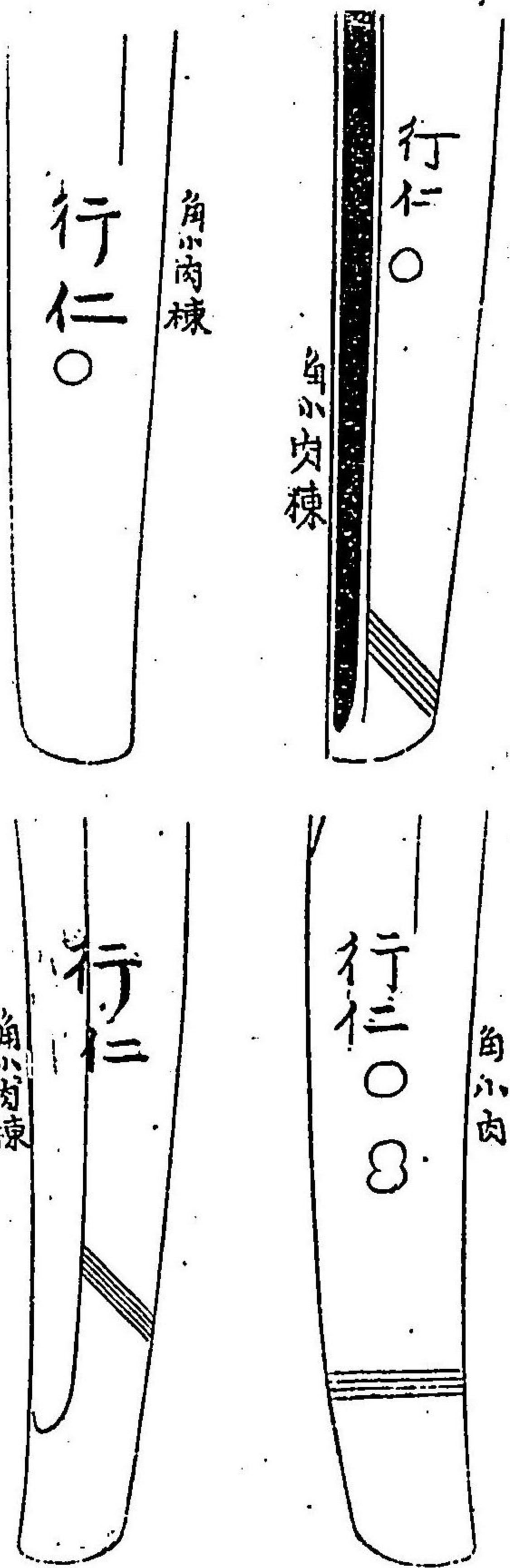
◎正國



樋目

正國は本國大和なり。後薩摩に來り住すと云ふ。太刀姿幅ありて反高く、地鐵青黒く、板目鍛にして木工肌あり。沸こまやかに、匂ひ深く、伯耆の安綱に似て、其の品位の卑きがごとく、又保壽の風情もあり。直又多し。

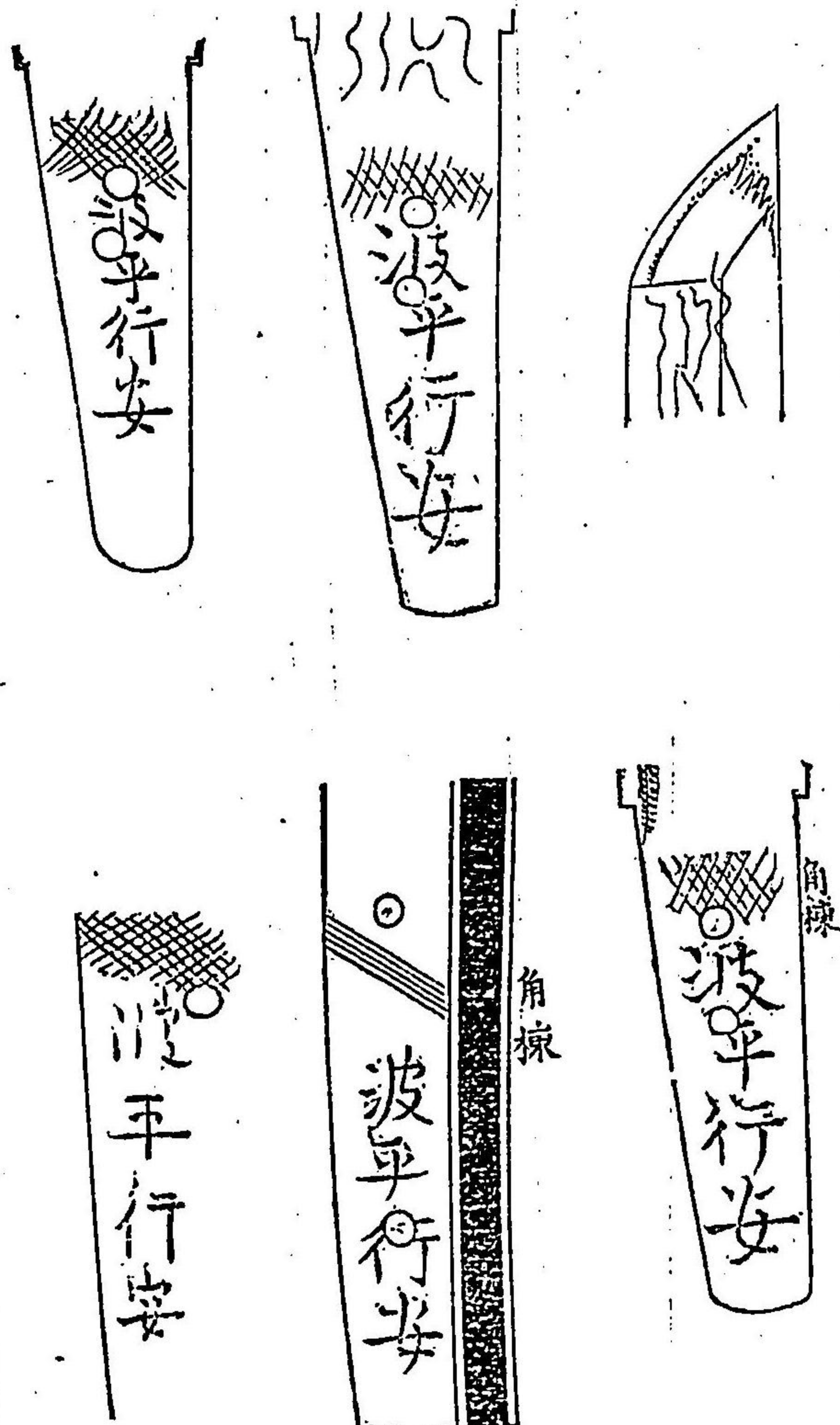
◎行仁



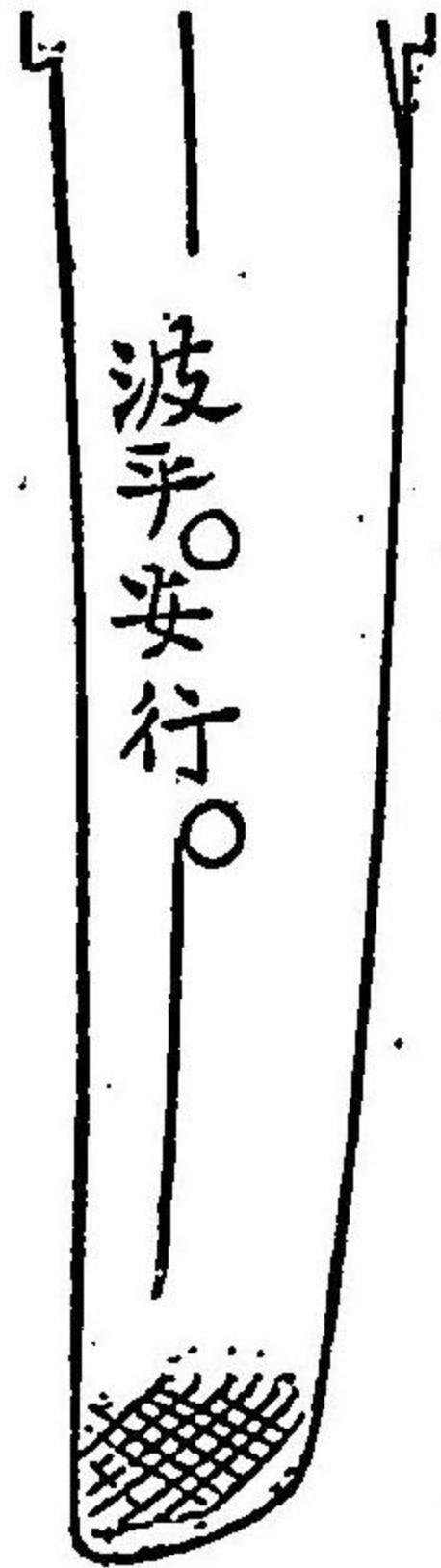
此の人の作にして、目貫穴を瓜實に穿ちたるもあり。大和瓜實は、銘を延吉と打ち、瓜實なきもあり。延吉と打つには、目貫穴の上に於いてし。瓜實は、目貫穴の下なり。而して右四圖のうち第一に示したるものは、双方まち七八分摺りたるが如くに見ゆるものなり。

行仁は行光と同人なりと云ふ。

◎行安



◎安行



正國の末孫なり。

波平安行。正和二年三月日

隆州住人波平安行

角棟

右下圖は正和嘉暦の頃の人にして別人なりとせり。然れども恐くは誤にして同人ならん。

角棟

筋違細モアリ

波○平○女行

隆州住人波平安行

隆州住人波平安行

行安、安行の兩人は、代々同銘十人ありと云ふ。

◎家安

波平家安

◎安家 アノノ

波平安家

波平安家

◎安久 アノノ

波平安久

◎安積 アノノ

波平安積

◎近安 チカノ

波平近安

浪平。近安作

明應十年

角棟

角棟

角棟

角棟

◎安光 アノノ

波平近安

○薩洲谷山郡波平安光

長和の作にあらず。元徳正慶の頃なり。

元弘三年

角棟

○波平安光

○薩洲谷山郡波平安光

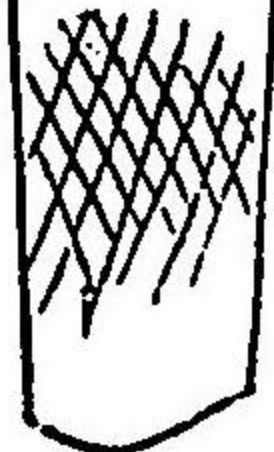
波平安光



延慶

◎安俊

波平女伎



角棟

筋遠縮モアリ

◎安信

波平安信

波平安信作

角棟

◎行久



行久

小肉

◎親安

波平親安

應永二十五年八月十八日

丸棟

(裏)

(裏)

◎清秀

雁別住清秀

○○弘治二年八月日

丸棟

(裏) 刃長七寸

(裏)

◎清左

九棟 鍋高

薩州麻兒鳥住清左

(表)

(裏)

永正五年八月日

薩州麻兒鳥住清左

九棟

此の二刀は同人の作なり。

◎貞安

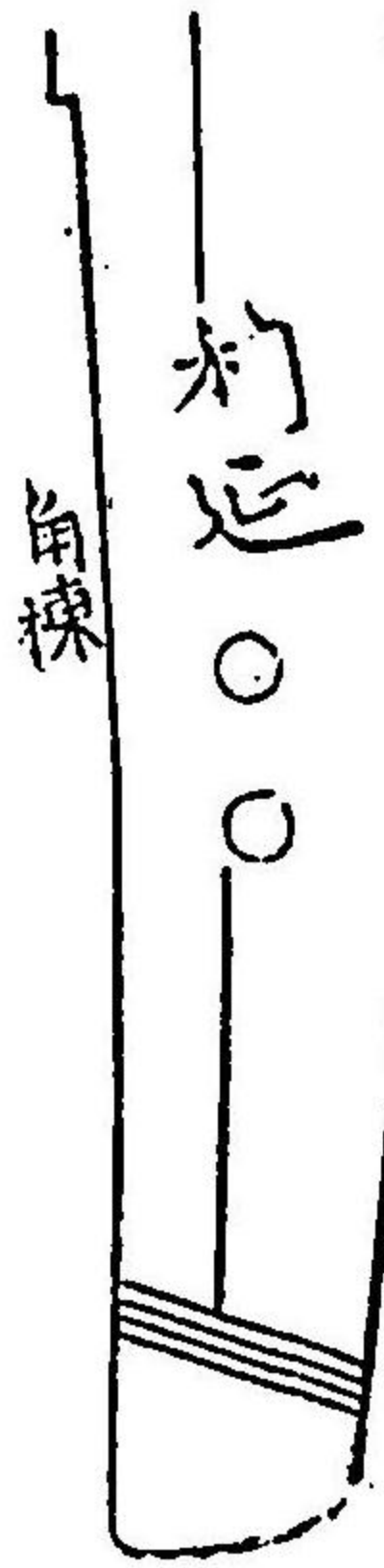
棟九シ

波平貞安

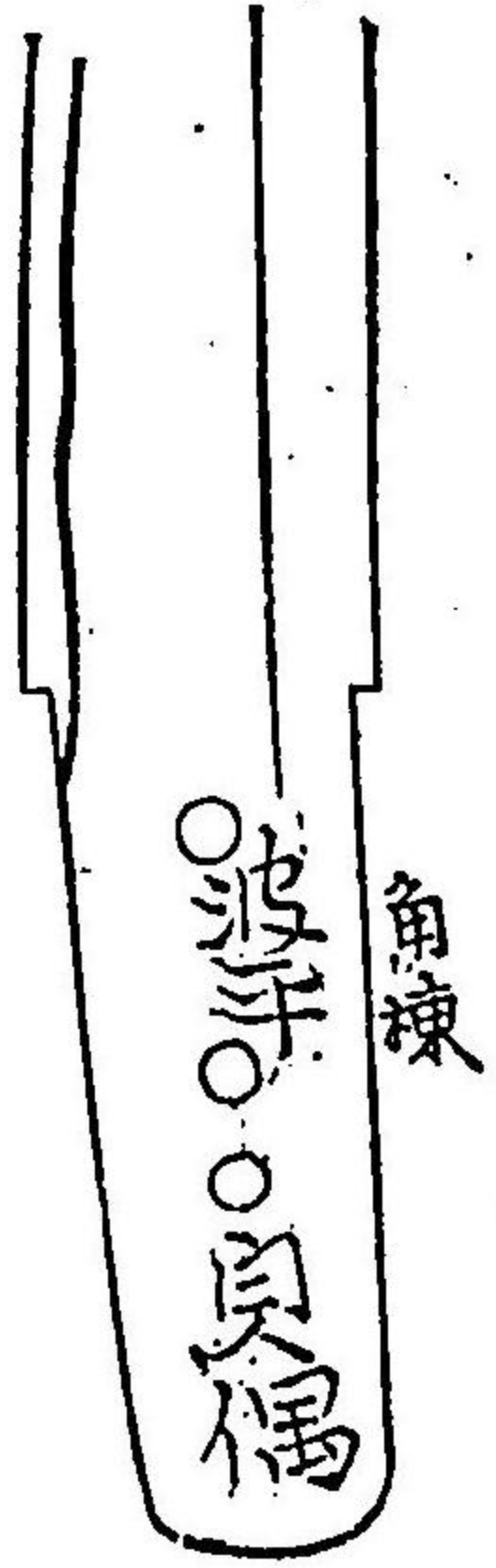
(表)

(裏)

天文七年二月日



◎利延とりのゑ



◎貞偶まのよ

角棟

(表)



◎草家安くさやまやす

〆月〇〇彼屋中日

(裏)

◎安玉 やすたま

波平○安玉

◎吉安 よしやす

波平○吉安作

◎安朝 やすあさ

波○平安朝

永享

波平○安玉

波平○吉安

波○平安朝

◎安明 アキミ

薩州○波平安明

二年天授

◎安一 アキヒ

波平安一作

◎安世 アキヨ

波平安世

薩州○波平安明

波平安一作

波平安世

◎吉光

波平吉光

吉井物の如く肌堅し。

◎波平吉光

◎重吉

薩州住重吉作

薩州住重吉

◎昌國

石貫昌國

◎安定

薩州住安定

正誤表

第十六編

頁行 誤

十四 天原以下誤り

正 天原は弘仁年間の八奥州の住なり

四二 十三 は三日月なり

正 どかりめにて

四九 十二 守恒は以下誤り

正 守恒は正恒の親にして悪七兵衛の太刀柄丸の作者なり

五九 四 刑部允

刑部丞

第十七編

三三 三 左のごとき以下誤

正 此の「門辰房の二字を頭字とす

四一 四 備前に於て以下誤

正 三代目清綱の手にて同銘二代あり

七五 三 ともいへり。典太

光世

頁行 誤

七五 四

正 典太

七三 二

鶴物以下誤植

七二 二

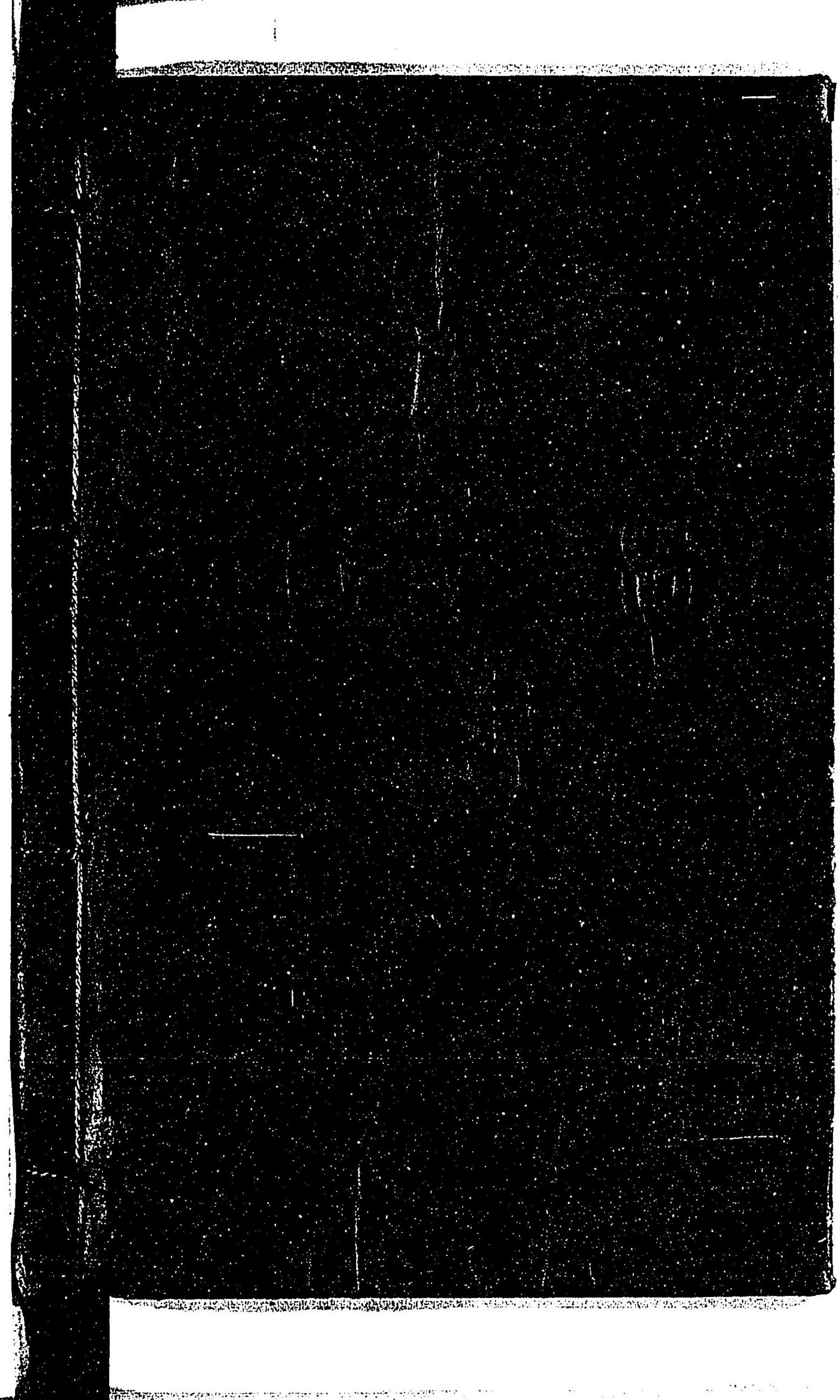
同人なるべし 薩州小春同人

四一 二

本國大和なり。後 薩摩に來り住すと云ふ 同銘大和にもあり

67
10
274

67
10
274



刀劍鑑定秘訣

古刀編

四

M